

中央環境審議会自然環境部会 自然公園等小委員会（第35回）

国立公園事業の決定・廃止・変更案件 に関する説明資料

（当日説明なし）

阿寒摩周国立公園 かみ こ いけ えんち 神の子池園地

決定

区域面積：4.3ha

執行者（予定者）：清里町

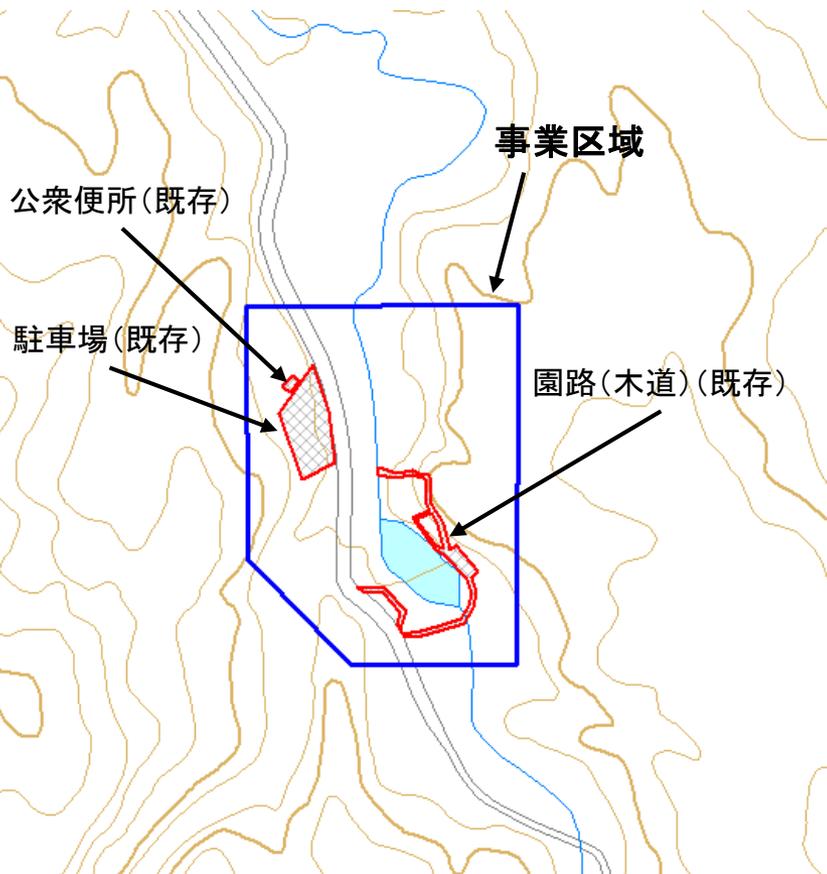
第3種特別地域、普通地域（公有地（国有林借地））

●位置図



○摩周湖カルデラ北側山麓部に位置する神秘的な雰囲気
を有する湖沼であり、近くの裏摩周展望台とともに
日帰りでの森林浴・自然探勝による利用がみられる。

神の子池園地決定区域図



事業規模

区域面積：4.3ha



駐車場



公衆便所



園路(木道) 出入口



園路(木道)

○事業決定の理由、事業規模の根拠（理由）等

平成29年度の公園計画変更（5次点検）の際、神の子池を含む摩周カルデラ北側外輪山山麓が公園区域に拡張されたことに伴い、当該園地の事業決定を行う。決定規模は、既存の施設を包含し、かつ事業執行予定者である清里町が今後整備を検討している休憩所の敷地を考慮した範囲としている。

既存施設の把握（駐車場、トイレ、園路）

施設整備者：清里町

- 清里町単独事業として、池周辺の踏込みによる荒廃を防ぐため園路を整備しているほか、利用環境向上のため駐車場、トイレが整備されている。



駐車場



公衆便所



園路

トイレ改修及び休憩所の整備

執行予定者：清里町

- 自然環境整備交付金を活用し既存トイレの改修及び休憩所（四阿等）を整備する予定（現地の静穏な雰囲気壊さないよう大規模な整備は行わない）

自然環境への影響

神の子池園地は清里町により必要最低限の施設（駐車場・トイレ・園路（木道））が整備済みで、老朽化の著しいトイレについては、今後、改修を行う予定。また、小規模な休憩所の整備を予定している。いずれも小規模な整備であり、自然環境への影響は抑えられる。

既存園路（木道）は池周辺への利用者の踏み込みによる荒廃を抑止する効果もあり、池（核心部）への影響を及ぼすものではない。



利用について

神の子池の神秘的な雰囲気求めて訪れる観光客等が快適に利用できる環境整備が必要である。神の子池特有の雰囲気を楽しむことに重点を置き、整備は最低限の規模とする。

既存施設の管理は引き続き清里町が行い、改修・新設予定の施設も清里町が整備・管理を行う。



十和田八幡平国立公園

とわだこ がいりんざんせん どうろ

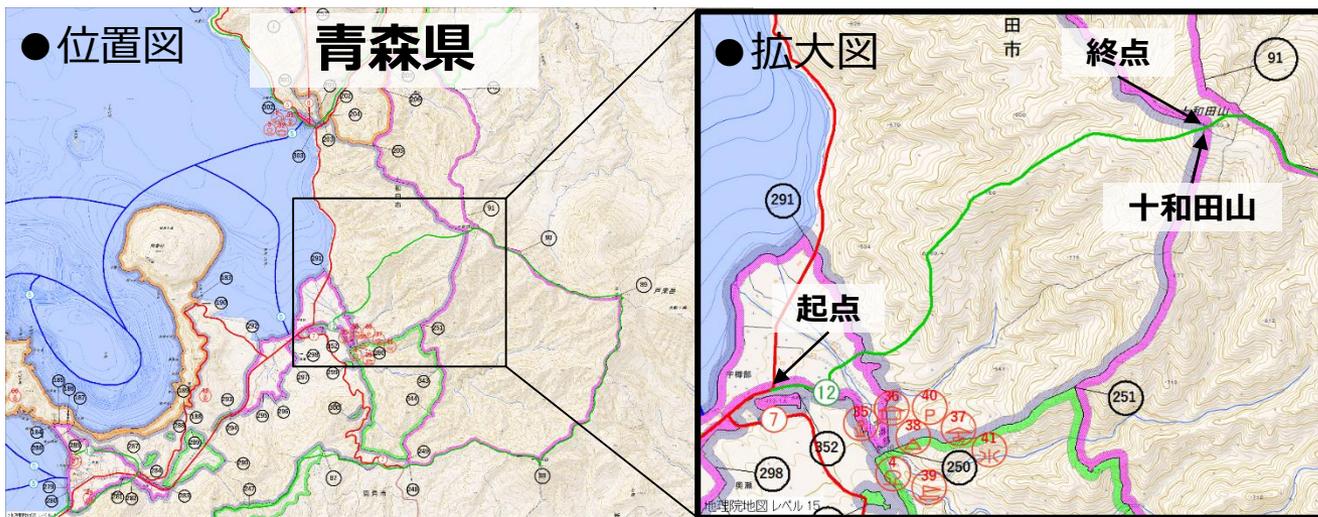
変更

路線距離：7.2km→10.8km

執行者（予定者）：環境省、秋田県

十和田湖外輪山線道路（歩道）

第1、2種特別地域（国有林）



○青森県十和田市から秋田県小坂町に至る十和田湖の外輪山に位置する歩道で、十和田湖を一望することができる。外輪山は約1,000mのラインで構成されており、その中でも一番標高が高い十和田山（標高1,054m）からは、十和田湖の火山活動を象徴する内壁も眺望することができる。

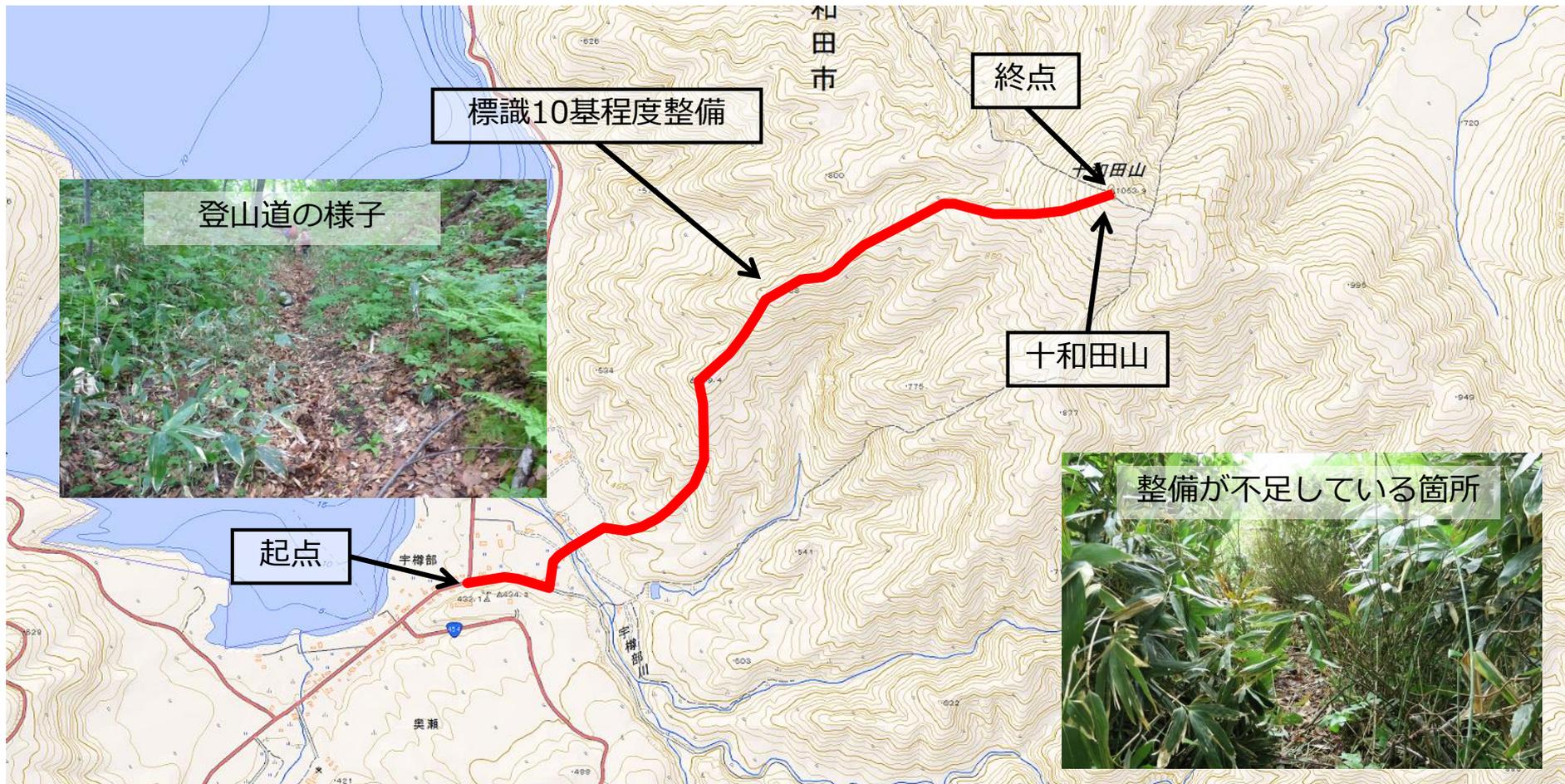


○国立公園満喫プロジェクト十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム
2020に記載の「外輪山（十和田山）において、新規の登山道整備を行う」に対応
するため、環境省において歩道を維持管理するとともに、標識を整備する予定。

満喫プロジェクトに伴う整備

執行予定者：環境省

- 十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム2020に記載の「外輪山（十和田山）において、新規の登山道整備を行う」に対応するため、環境省において歩道を維持管理するとともに、標識（多言語化）を10基程度（山頂・入口各1基、導標（山頂まで○km等）約8基）を予定。



自然環境への影響

○外輪山の西側のルートについては、秋田県において事業執行が行われており、登山道を適切に維持管理することで登山道沿線の植生の保護（登山道幅の刈り払いを行うことで、歩道以外を迂回して使用することが無くなること）が図られるとともに登山者の利用の用に供している。

○事業決定を行う外輪山の東側に位置する十和田山までのルートは、以前は使用されていたものの管理者不在により場所によっては荒廃していることから、今後、国有林を環境省が借地する予定。草刈りや標識設置等の適切な維持管理及び標識整備を行う計画で、快適な利用が確保され、周囲の自然環境への負荷の軽減が図られるものである。



十和田山に至る登山道の途中からの眺望

屎尿対策について

○十和田山までは片道4 km弱で、徒歩2時間程度であることから、登山道入口に至る青森鹿角線道路（車道）（国道103号線）沿いにある公衆トイレ（宇樽部駐車場事業の付帯施設：青森県事業執行）を使用することで、屎尿の問題が生じることはないと考えている。

十和田八幡平国立公園

後生掛宿舎

変更

最大宿泊者数：450人日→650人日

区域面積：変更なし（2.3ha）

執行者：民間

第1・2・3種特別地域（国有林）



○八幡平の北西麓、標高950mに位置する大沼と後生掛温泉周辺である。

○主な利用形態は、大沼を周回する自然散策、湯治、登山等であり、当該施設は周辺の滞在及び温泉利用のための施設として利用されている。

既存宿舎の把握

- 民間により、「後生掛温泉」「八幡平高原ホテル」「八幡平グリーンホテル」「八幡平大沼茶屋湖」の4軒の宿舎が事業執行されている。



三陸復興国立公園
じょうどがはま ちゅうしゃじょう
浄土ヶ浜駐車場

変更

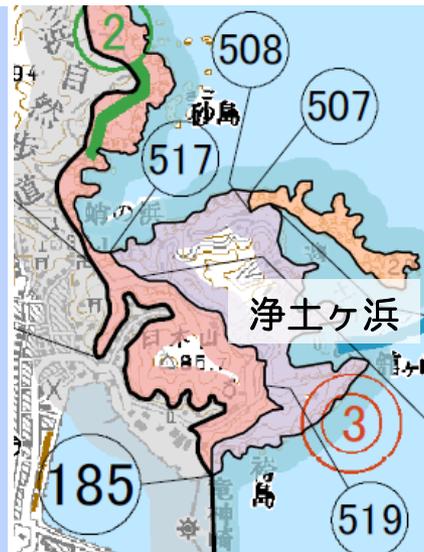
区域面積：1.5ha→1.8ha

執行者（予定者）：宮古市

●位置図



●計画図



第2種特別地域（宮古市有地）



浄土ヶ浜



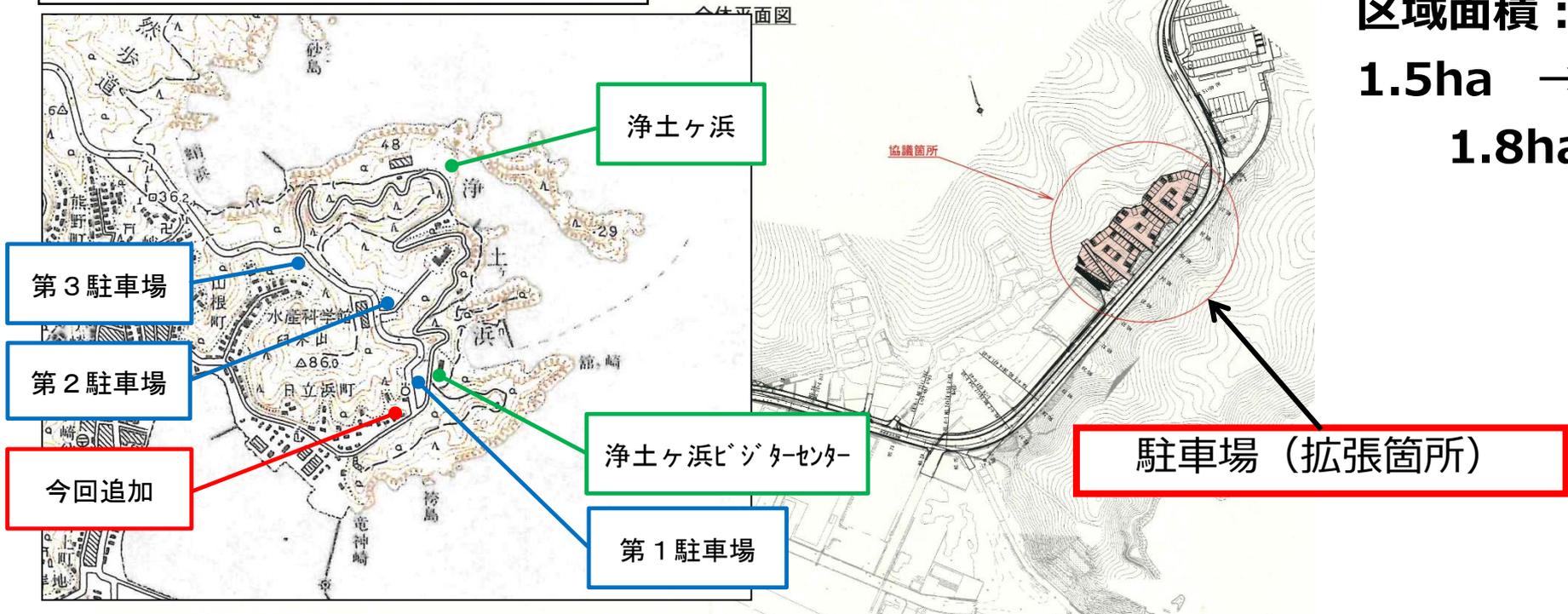
御台場展望台からの眺望

○当該地域は三陸復興国立公園を代表する景勝地である
 浄土ヶ浜に位置し、事業地周辺では、遊歩道の散策、
 遊覧船・小型動力船による海上散策、宿舎事業による
 宿泊、博物展示施設による展示や自然体験プログラム
 への参加等の利用がなされている。

— 変更後
— 変更前（現行区域）

事業規模

区域面積：
 1.5ha →
 1.8ha



- 事業地周辺は三陸復興国立公園において最も利用者の多い場所であり、年間100万人程度（岩手県観光統計）の利用者が訪れている。
- 事業地へのアクセスは車が中心となっており、現在環境省と岩手県により整備されている3箇所の駐車場では、乗用車378台、大型自動車7台程度の収容が可能であるが、繁忙期は既存の駐車場のみでは対応できないため、仮設住宅の跡地で更地になっている当該地において、宮古市が新規駐車場を整備する。

自然環境への影響

- ・新たに駐車場を整備する区域は、東日本大震災に伴い設置した仮設住宅の跡地である。現在は空き地として残り、隣接する浄土ヶ浜道路の線形改良に伴う工事の作業場として使用されている。よって、駐車場の整備による新たな自然環境への負荷は小さい。
- ・また、在来種による植栽等により景観上の支障が最小限となるよう調整する。
- ・整備後は宮古市が管理を行う。



日光国立公園

なすれんざんしゅみやくじゅうそうせん どうろ
那須連山主脈縦走線道路（歩道）

変更

路線距離：20km→20km（変更なし）

再測量による精査

執行予定：環境省・栃木県

特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域、普通地域（国有林、下郷町）

●位置図

福島県・栃木県



●計画図



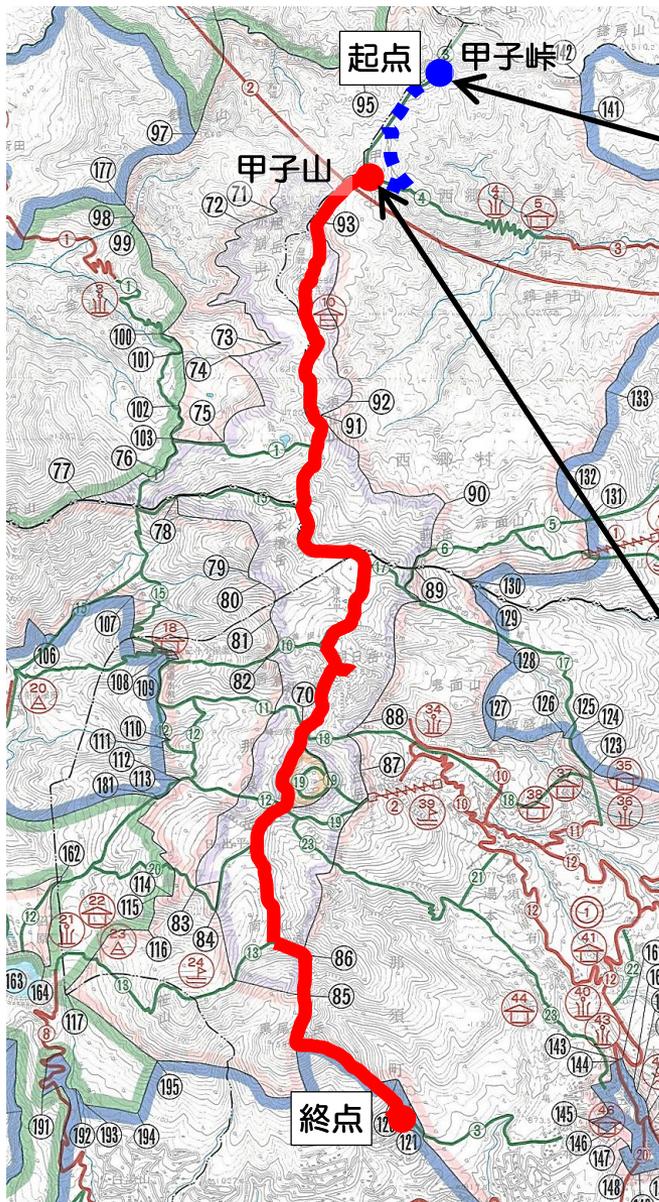
- 那須連山を南北に縦走する登山道であり、特に南月山から三本槍岳までは多くの利用者がある。
- 茶臼岳山頂では現在も活発な火山噴気現象が見られ、周辺には火山性荒原が広がる。



【那須連山主脈縦走線】茶臼岳から三本槍岳方面の展望
（写真中央一番奥が三本槍岳）

起点の変更

- 変更（延長）部分
- 変更前（現行区域）



甲子峠（変更後 起点）



甲子山山頂（変更前 起点）

■ 路線距離

20km→20km

※再測量による

精査の結果変更なし

■ 執行予定（変更部分）

環境省

既存歩道の区間及び距離を正しく把握するため、起点を甲子山から甲子峠に変更

尾瀬国立公園

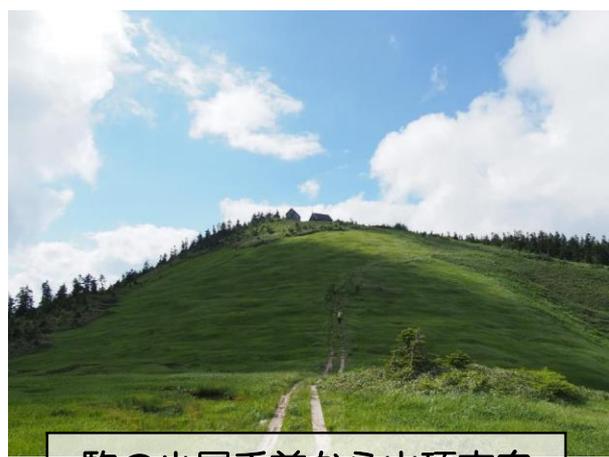
会津駒ヶ岳登山線道路（歩道）

路線距離：7.2km→7.6km

執行者：環境省、檜枝岐村

変更

特別保護地区、第1種・第2種・第3種特別地域（国有林、村有林）



駒の小屋手前から山頂方向



駒の大池周辺の湿原植生

- 日本百名山の会津駒ヶ岳（2,132m）の登山道
 - 駒ノ大池から中門岳間（特別保護地区）には雪田草原が発達イワイチョウ群落など周辺と異なる特異な景観
- 日本の亜高山帯～高山帯下部の湿原植生の特徴を示す植生として、多数の池塘と併せ、景観的に極めて貴重

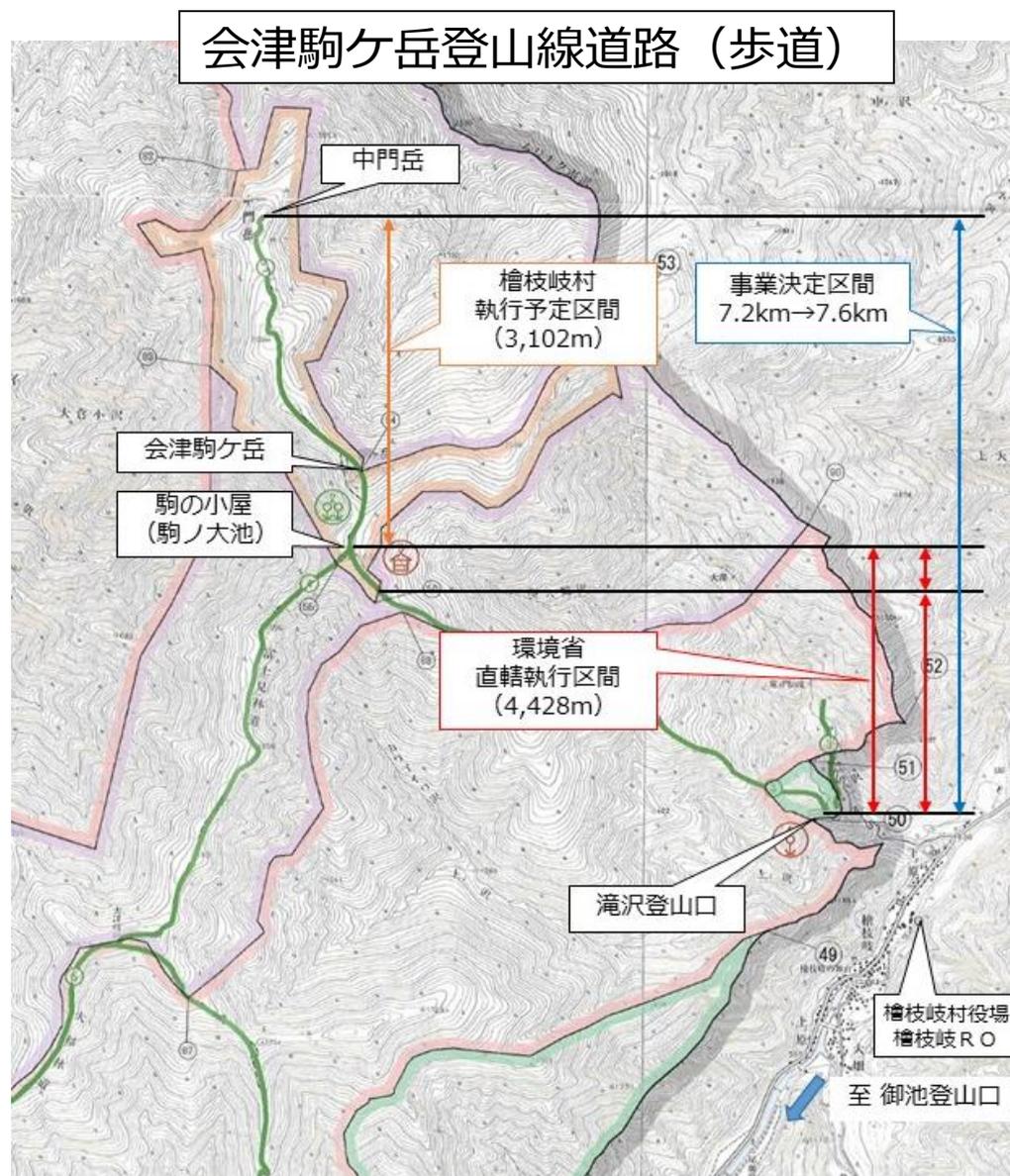
変更理由

路線の明確化に伴う路線距離の増加

- 日光NPからの分離独立（H19）以前に檜枝岐村が木道を整備（昭和47年～平成14年）
- H20事業決定、H21滝沢登山口～駒ノ大池手前を環境省が直轄執行・整備したが、以奥の区間については未執行
- 整備後15年以上経過し木道の老朽化が激しく、滑りやすく転倒しやすい状態



- 檜枝岐村が駒ノ大池～中門岳を執行、再整備を計画
- 測量結果に基づいて歩道全体の路線距離の見直しを行う



保護又は利用上の必要性及び効果

- 老朽化・傾斜した木道が非常に滑りやすく安全上問題
…特に近年は百名山登山者の高齢者も多く、重大な事故を防ぐ必要
- 滑りやすい木道を避け歩道脇に避けることで、貴重かつ脆弱な植生にも悪影響



- 既設木道の再整備・修繕により、歩きやすく植生を傷つけにくい利用環境へ
- 拡張区域である会津駒ヶ岳の利用環境を整えることで、尾瀬ヶ原に集中している利用者の分散化にも寄与。減少している福島県域側の利用を増進。



老朽化した木道
(雨で濡れると非常に滑りやすい)

自然環境等への影響

- ✓ 再整備は既設木道の撤去、更新又は修繕であり、植生の新たな破壊は伴わない
- ✓ 支障木の伐採等は必要最小限に留め、特に貴重な植生・植物のある場所は避ける
- ✓ 工事時期は、湿原植物の活動が休止に向かう9、10月とし、湿原植生に与える影響を最小限にする
- ✓ 資材搬入等により、外来植物が持ち込まれないよう運搬方法等にも配慮

富士箱根伊豆国立公園
すわ もり しゅくしゃ
諏訪の森宿舎

廃止

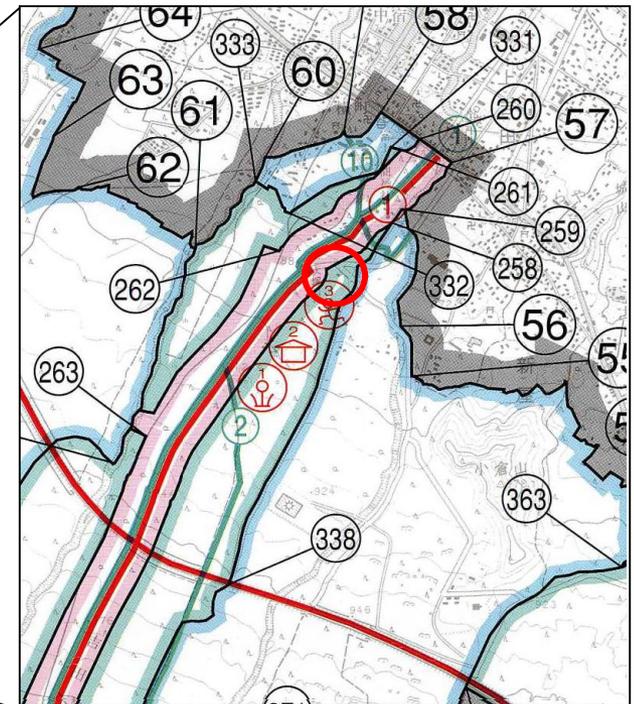
区域面積 : 0.5ha
最大宿泊者数 : 150人/日

第2特別地域

●位置図



●公園計画図



- 当該地は富士山の北麓、吉田口登山道沿い標高約900mの丘陵地で、アカマツの人工林が広がっている。
- 富士吉田市が整備した園地（諏訪の森自然公園）と運動場（富士パインズパーク）があり、主に自然散策やピクニックなどに利用されている。

廃止理由

- 本宿舎は、富士登山における、北口本宮富士浅間神社を起点とする吉田口登山道の利用拠点を整備する目的で昭和59年に事業決定された。
- その後、吉田口登山道の利用は、スバルラインを経由した吉田口5合目からの登山利用が主流となり、宿泊拠点は本事業地に隣接する公園外に多くの宿泊施設が整備されている。
- よって、同事業地に新たに宿泊施設を整備する必要性がなくなったため廃止する。

※公園計画の変更に合わせた事業の廃止

自然環境への影響

- 本事業による既存施設等はなく、したがって廃止による施設の撤去等の工事も発生しない。
- よって風致景観や希少動植物への影響はない。

富士箱根伊豆国立公園 本栖湖西岸宿舎

廃止

区域面積 : 1.5ha

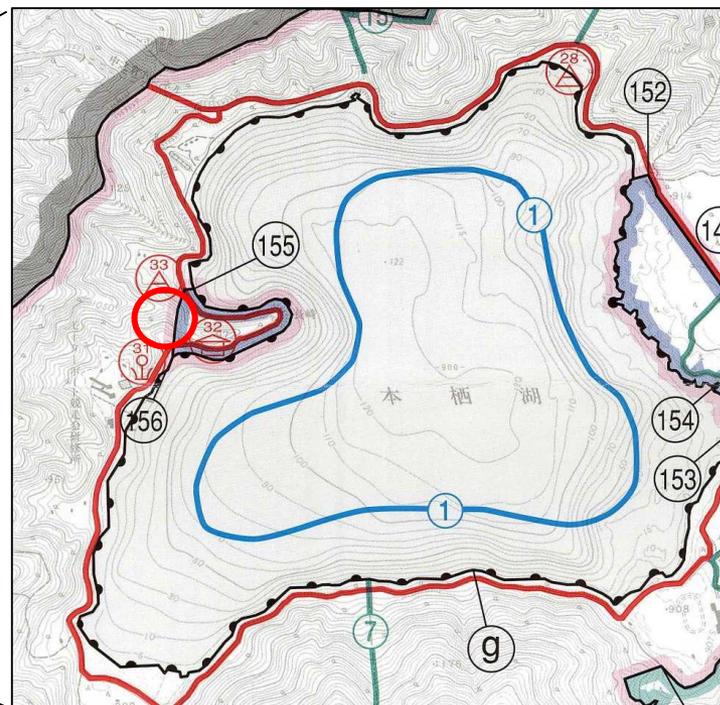
最大宿泊者数 : 100人/日

第2特別地域

●位置図



●公園計画図



○当該地は本栖湖の西岸、中ノ倉山や雨ヶ岳、竜ヶ岳に囲まれた平地に位置し、周辺には野営場が整備され、本栖湖での釣りやウインドサーフィン、湖畔の自然散策やキャンプ、周辺の山の登山などの利用が多い。

廃止理由

- 本栖湖西岸宿舎は、昭和39年に本栖川尻宿舎として事業決定された。
 - 平成8年の公園計画変更の際に本栖湖西岸宿舎として整理されたものの、現在に至るまで宿舎事業は具体化されていない。
 - 当該地区では野営場が公園の利用拠点として機能しており、宿舎事業としては隣接する本栖集団施設地区内の施設が充実している。
 - よって、本事業地内に宿舎を整備する必要性がなくなったことから廃止する。
- ※公園計画の変更に合わせた事業の廃止

自然環境への影響

- 本事業による既存施設等はなく、したがって廃止による施設の撤去等の工事も発生しない。
- よって風致景観や希少動植物への影響はない。

富士箱根伊豆国立公園 ふなつ きゅうゆ しせつ 船津給油施設

廃止

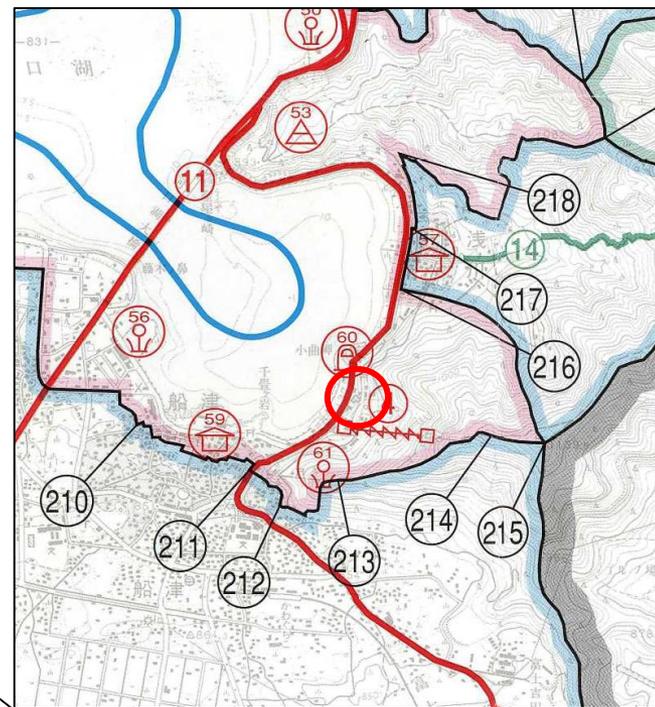
区域面積 : 0.1ha

第2特別地域

●位置図



●公園計画図



○当該地は河口湖の南東岸の湖畔、甲府船津線道路の沿線で、周辺には旅館や売店が多く建ち並び、河口湖を訪れた観光客の宿泊や散策などに利用されている。

廃止理由

- 本給油施設は、昭和32年の船津自動車運輸施設として事業決定され、平成8年の公園計画変更の際に船津給油施設として整理された。
- 隣接する普通地域内に整備されている給油施設が多数あることから、本地域内に給油施設を新たに整備する必要性がなくなったため廃止する。

※公園計画の変更に合わせて事業の廃止

自然環境への影響

- 本事業による既存施設等はなく、したがって廃止による施設の撤去等の工事も発生しない。
- よって風致景観や希少動植物への影響はない。

南アルプス国立公園

みなみおむろ しゅくしや

南御室宿舎

決定

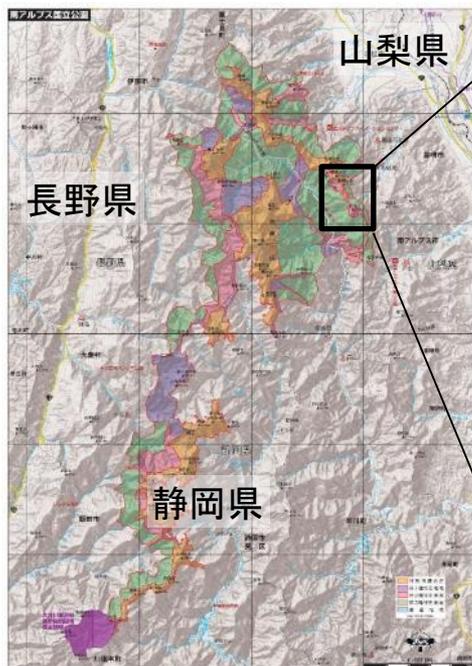
区域面積：0.04ha

最大宿泊者数：70人/日

執行者（予定者）：民間

第3種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図

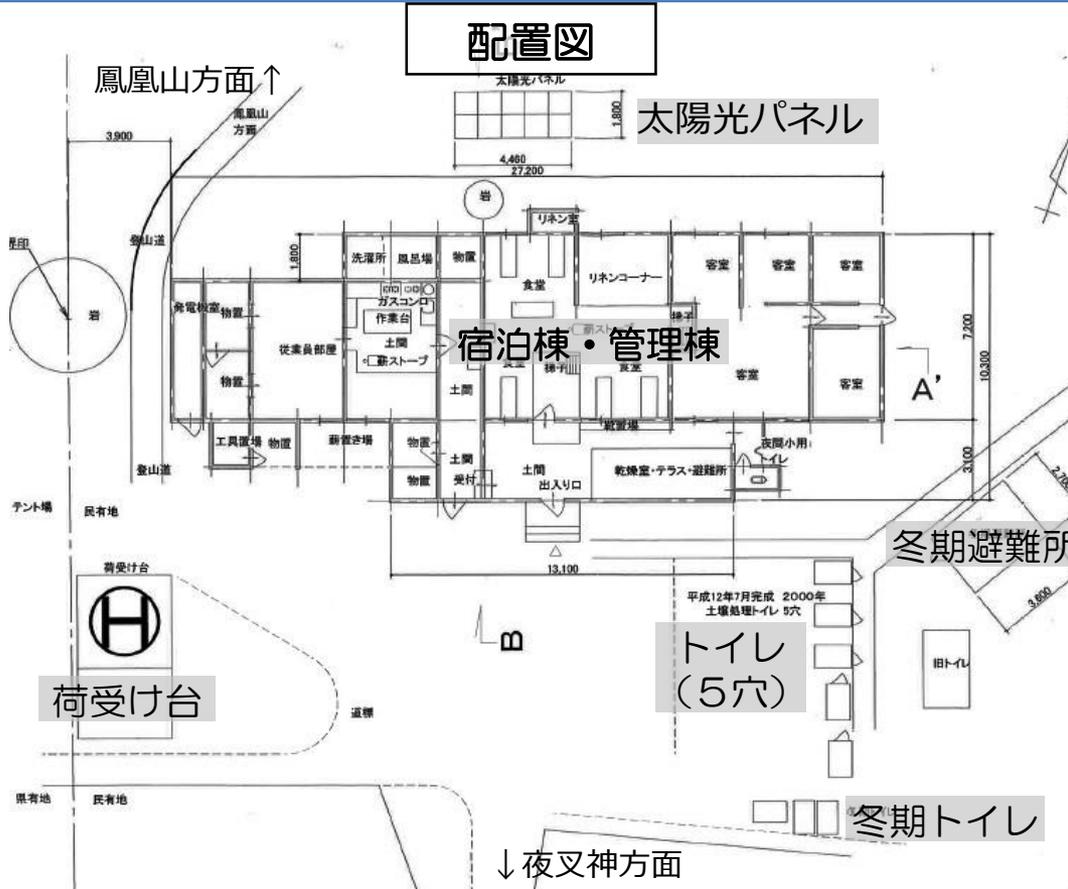


薬師岳（鳳凰三山）

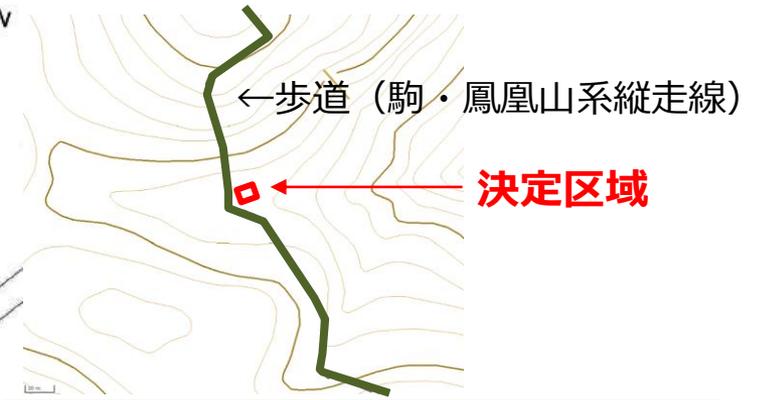


夜叉神峠

- 本事業地は薬師岳と辻山間の鞍部に位置する。周囲は樹林帯に覆われている。
- 鳳凰三山（地蔵岳、観音岳、薬師岳）と夜叉神峠を結ぶ尾根、駒・鳳凰山系縦走線（歩道）の近傍に位置し、登山時の休憩拠点となる。



決定規模 区域面積：0.04ha



- 事業地周辺の主な利用形態は、夜叉神峠～鳳凰三山の登山縦走が主である
- 正確な利用者数は不明だが、利用の多い北部地域の中では比較的少ない
- 南御室小屋の年間宿泊者数は2,150人程度。4～11月には管理人が常駐し、冬期には無人小屋として利用される。
- 昭和39年の公園計画策定以降、既存工作物として取り扱われてきたが、公園事業として執行する調整がついたことから、事業決定を行うもの。

既存施設の把握（山小屋、冬期小屋、トイレ等） 執行予定者：民間

- 公園を安全かつ快適に利用する上で重要な宿泊施設（山小屋）、冬期小屋、トイレ等が整備されている（民間事業者）



宿泊施設(山小屋)



冬期小屋



トイレ

風致・自然環境への影響

- 事業地は樹林帯の中に位置し、周辺の展望地からは望見されない。
- 既存施設の把握であり、新たな工事を伴わないことから、自然環境への影響はない。
- トイレの処理方式は土壌処理※（簡易水洗）と汲み取りであり、環境への影響は最小限

※土壌粒子による吸着、土壌微生物の代謝作用。処理水は浄化水として循環



上信越高原国立公園

決定

区域面積：18.5km

たにがわあさひ じゅうそうせん どうろ

谷川朝日縦走線道路（歩道）

執行者（予定者）：みなかみ町

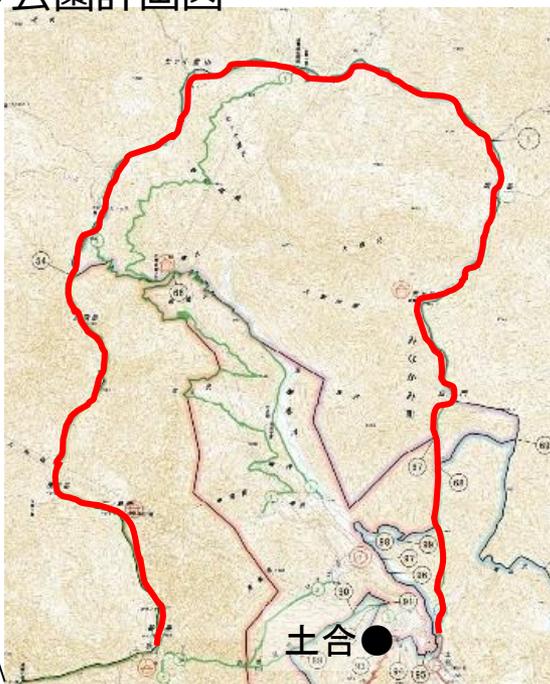
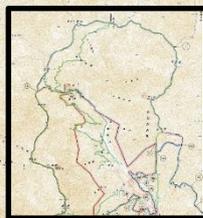
群馬県、湯沢町

特別保護地区、第1、2種特別地域、普通地域（国有地）

●位置図

●公園計画図

群馬県・
新潟県



一ノ倉岳



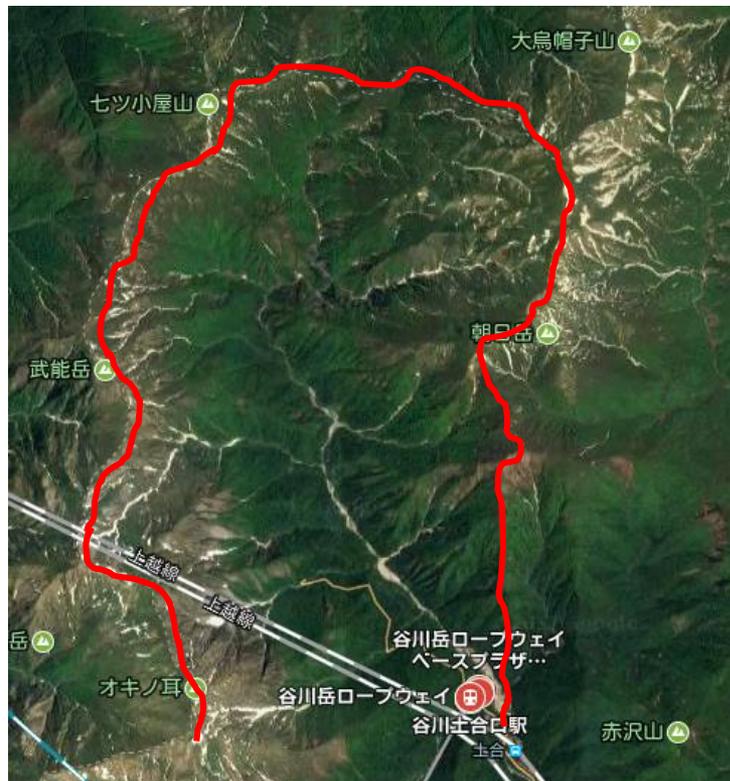
白毛門から土合口

○谷川連峰東面の馬蹄形の路線で、湯桧曾川沿いに連なる山々の稜線を結ぶ路線である。

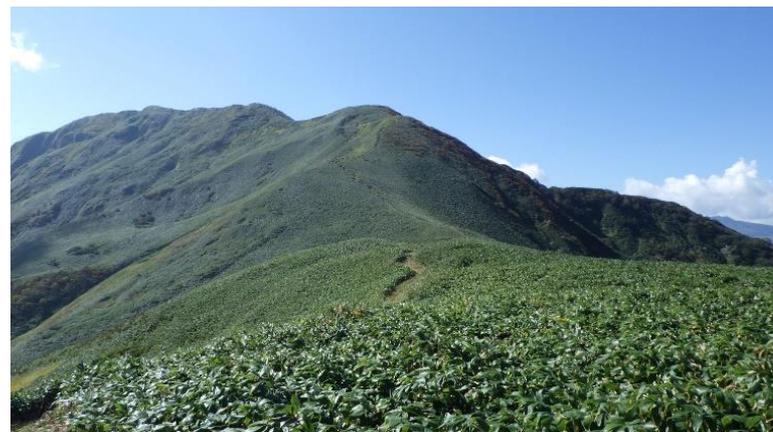
○主に土合口を基点に周回できる路線として利用されている。

谷川朝日縦走線道路（歩道）

決定区域図



事業規模 区域面積：18.5km



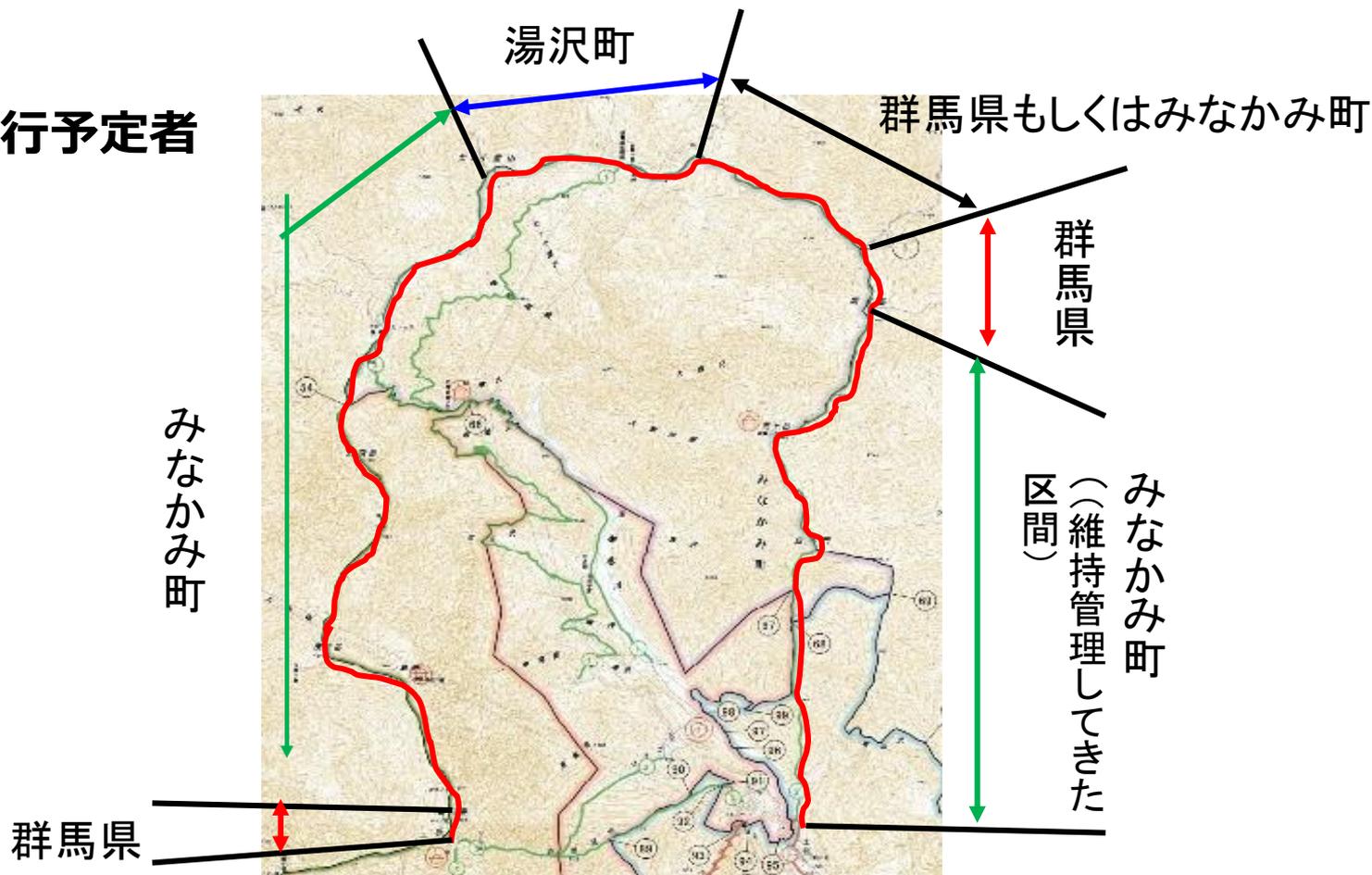
- 谷川朝日縦走線道路（歩道）として計画されている全区間を決定するもの。
- ぐんま県境稜線トレイルとして位置づけるに当たり、地元自治体が事業執行する。
- 群馬県が当該区間を含めた土合～鳥居峠までの約100kmを「ぐんま県境稜線トレイル」として位置づける予定。

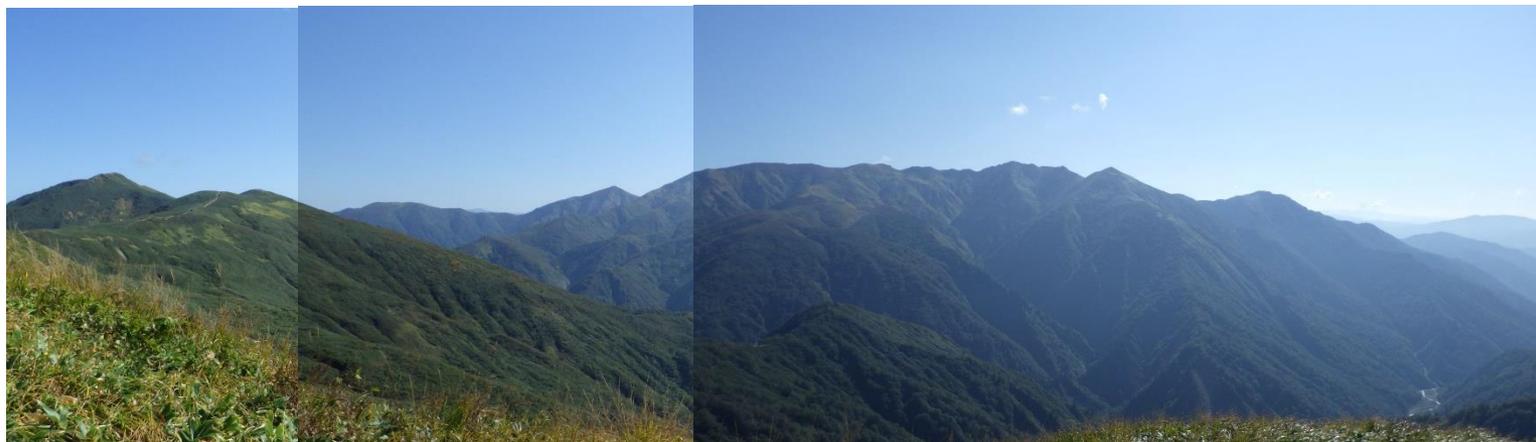
既存施設の把握（歩道）

執行者（予定者）：みなかみ町、群馬県、湯沢町

- 公園を安全かつ快適に利用するため谷川朝日縦走線道路（歩道）事業として、既存の歩道を把握するもの。新たな整備等の予定はない。
- 地元自治体が土地の貸借及び維持管理を適切に行う予定。

事業執行予定者





武能岳から朝日岳、白毛門方面

自然環境への影響

当該路線場には、ホソバウスユキソウなどの希少植物も点在するが、歩道も明確であり、地元自治体により適切に管理されることから景観に与える影響は小さい。



上信越高原国立公園

よもぎとうげせんどうろ

蓬峠線道路（歩道）

決定

区域面積：0.7km

執行者（予定者）：湯沢町

特別地域（国有地）

●位置図



●公園計画図

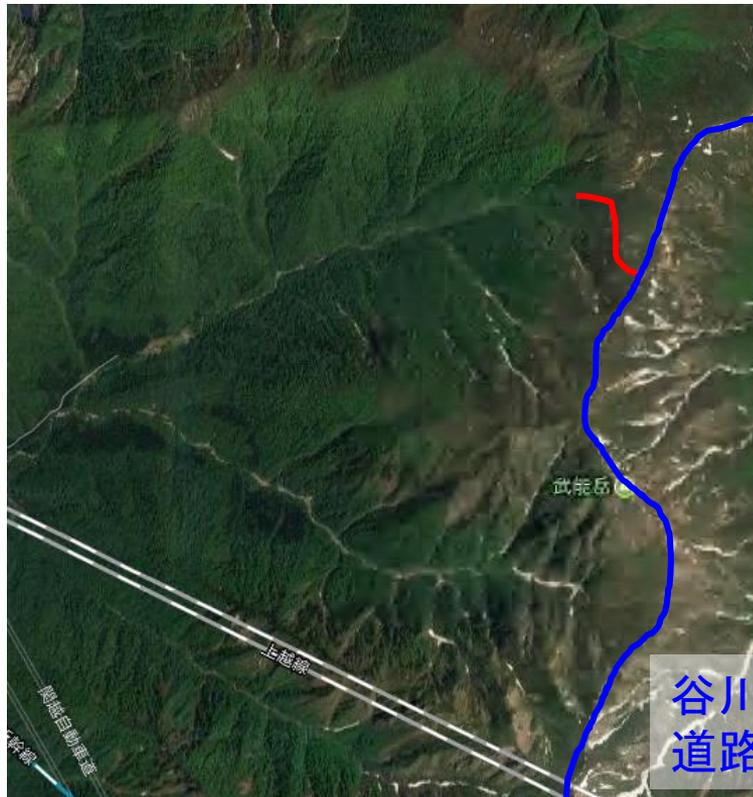


○谷川連峰東面に位置する谷川朝日縦走線道路（歩道）への新潟県側からの主要なアクセス道。

○主に土樽と土合を結ぶ路線として利用されている。

蓬峠線道路（歩道）

決定区域図



事業規模

区域面積：0.7km

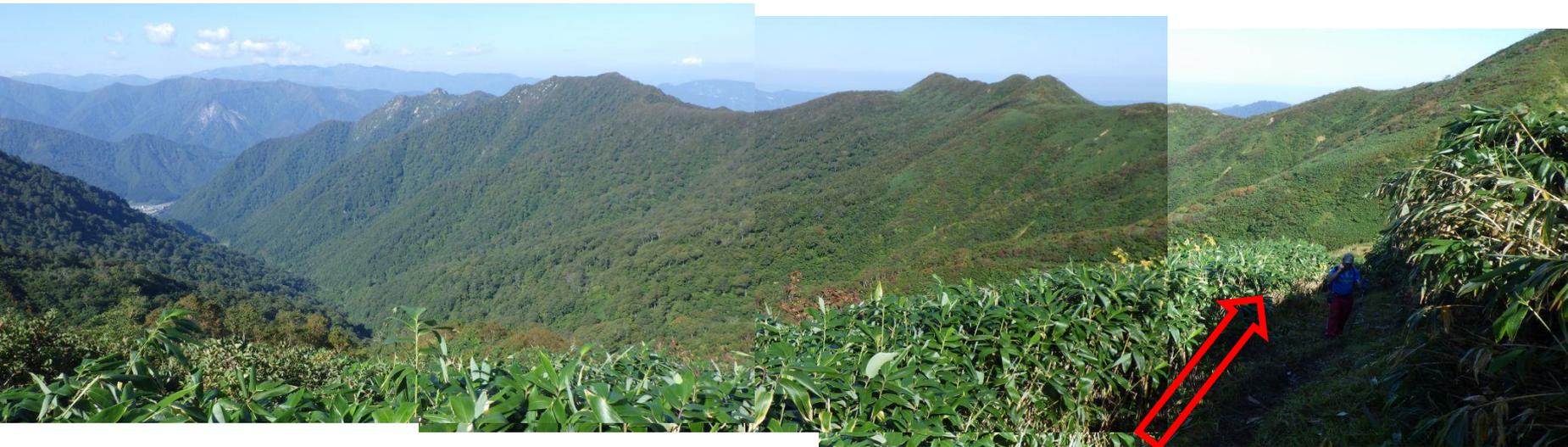


- 蓬峠線道路（歩道）として計画されている全区間を決定するもの。
- 湯沢町やみなかみ町などで構成している雪国観光圏が当該区間を含めた280kmを「スノーカントリートレイル」として位置づける予定。
- スノーカントリートレイルとして位置づけるに当たり、地元自治体が国有林を借地し、事業執行する予定。

既存施設の把握（歩道）

執行者（予定者）：
湯沢町

- 蓬峠線道路（歩道）事業として、公園を安全かつ快適に利用するために維持管理されている。



蓬峠付近から土樽方面

自然環境への影響

当該路線周辺は、ササで覆われ、道ばたにはウメバチソウなどが点在するが、歩道も明確であり、地元自治体により適切に管理されることから風致に与える影響は小さい。



上信越高原国立公園

しげくだけせん どうろ

茂倉岳線道路（歩道）

決定

区域面積：3.4km

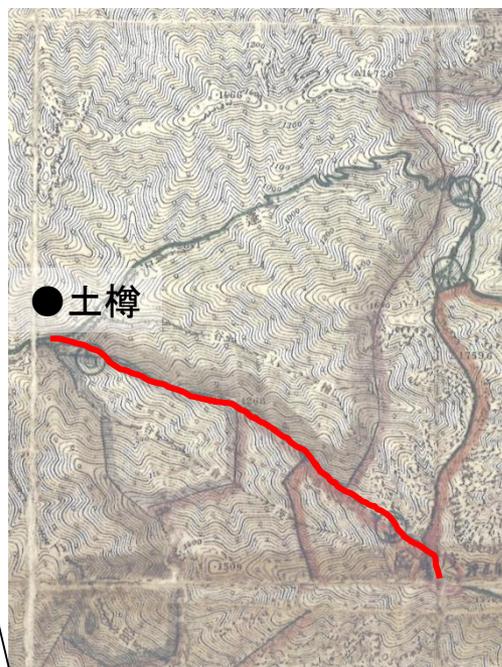
執行者（予定者）：湯沢町

特別地域（国有地）

●位置図



●公園計画図



○谷川連峰東面の谷川朝日縦走線道路（歩道）への、新潟県側からの主要なアクセス道の一つ。

○茂倉岳への日帰りルートとしても利用されている。

決定区域図



谷川朝日縦走線
道路(歩道)

事業規模 区域面積：3.4km



- 茂倉岳線道路（歩道）として計画されている全区間を決定するもの。
- 湯沢町内の他の主要登山道は、スノーカントリートレイルやぐんま県境稜線トレイルとして位置づけられ公園事業として執行する予定で、当該路線も併せて国有林を借地し事業執行する予定。
- 歩道に隣接する避難小屋は、新潟県が事業執行し、湯沢町が管理している。

既存施設の把握（歩道）

執行者（予定者）：
湯沢町

- 茂倉岳線道路（歩道）事業として、公園を安全かつ快適に利用するために維持管理されている。



尾根を通る路線



茂倉岳避難小屋事業



林内の歩道の状況

自然環境への影響

当該路線周辺は、稜線部では主にササで覆われ、樹林帯では、主にブナ林となっている。歩道も明確であり、地元自治体により適切に管理されることから風致に与える影響は小さい。

上信越高原国立公園

にれいすがだいらせん どうろ

仁礼菅平線道路（車道）

変更

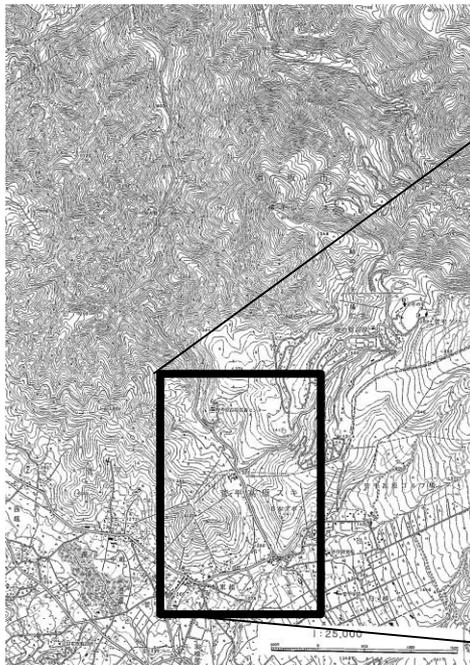
路線距離：9.2km→11.0km

有効幅員：9.0km（変更なし）

執行者（予定者）：長野県

第2種特別地域（長野県有地、上田市有地、私有地）

●位置図



●公園計画図



スキー場



宿舎

- 仁礼菅平線道路（車道）は、上田市と須坂市をつなぐ道路である。
- 平成28年の菅平高原への入込者数は約100万人であった。
- 近年は周辺の山地斜面にスキー場、山麓では高原野菜耕作地の他、球技グラウンド、テニスコート等の運動施設の利用や宿泊利用が盛んに行われている。根子岳・四阿山への登山基地となっており、高原避暑地としての利用も多い。

仁礼菅平線道路（車道）決定位置図



事業規模

路線距離：9.2 km→11.0km

有効幅員：9.0m（変更なし）

今回追加路線の道路の様子



- 当該車道事業は上田市街地から菅平に至る唯一の道路であり、利用者も多く見られる状況である。
- 道路の一部に歩道が設置されていない箇所があり、歩行者等にとって危険な状況が見られる。そのため、公園利用者の安全確保のために歩道の新設を計画しており、これに伴い、事業規模の変更を行うものである。

一部区間の改良

執行予定者：長野県

- 利用者の安全を確保するために東側2.5m程度道路を拡張し、片側に歩道を新設予定。



歩道新設箇所 1km

道路東側に樹木が見られるが、これらの樹木の一部を伐採予定(以下写真参照)



自然環境への影響

- 工事に伴い、道路際のスギなどの樹木170本程度伐採予定だが、必要最小限の数であり、複列に並んだ樹林帯となっているため、景観上の支障は少ない。
- 盛土は当該工事の切土で発生する土砂の活用を予定しており、外来種の侵入予防策がとられている。
- 転落防止策や車両防護柵は周囲に配慮した着色をする予定であるため、景観上の支障は少ない。

中部山岳国立公園 だいら しゆくしゃ ワサビ平宿舎

変更

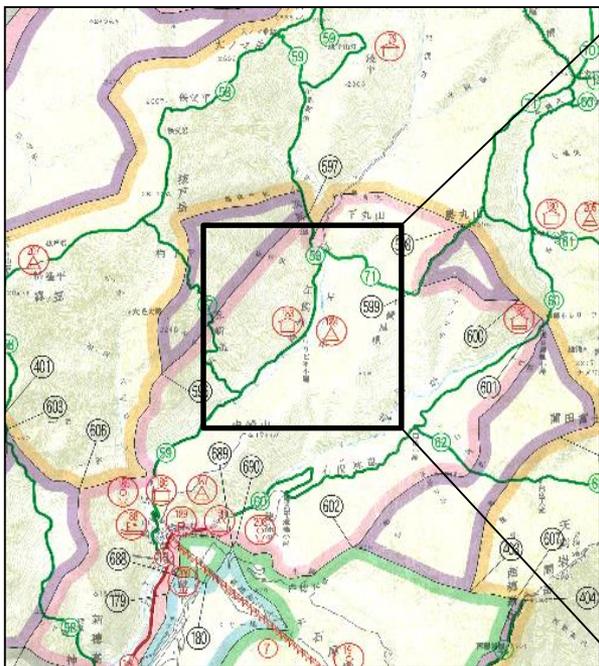
区域面積：0.1ha→0.2ha

最大宿泊者数：100人/日→変更なし

執行者（予定者）：民間

第2種特別地域（国有林）

●位置図



●公園計画図



- ワサビ平は縦沢岳を源流とする左俣谷の標高約1,400m付近に位置し、周囲はブナ林。
- 岐阜県側から北アルプスへの登山者数は増加傾向にあり平成28年は約5.4万人と過去最高。
- ワサビ平宿舎のある左俣林道は、北アルプスへの登山拠点となる新穂高から笠ヶ岳・双六岳のほか奥黒部方面へと向かうメインルートであり通過利用者も非常に多い。

ワサビ平宿舎変更位置図



事業規模

区域面積：0.1ha→0.2ha

最大宿泊者数：

100人/日→変更なし

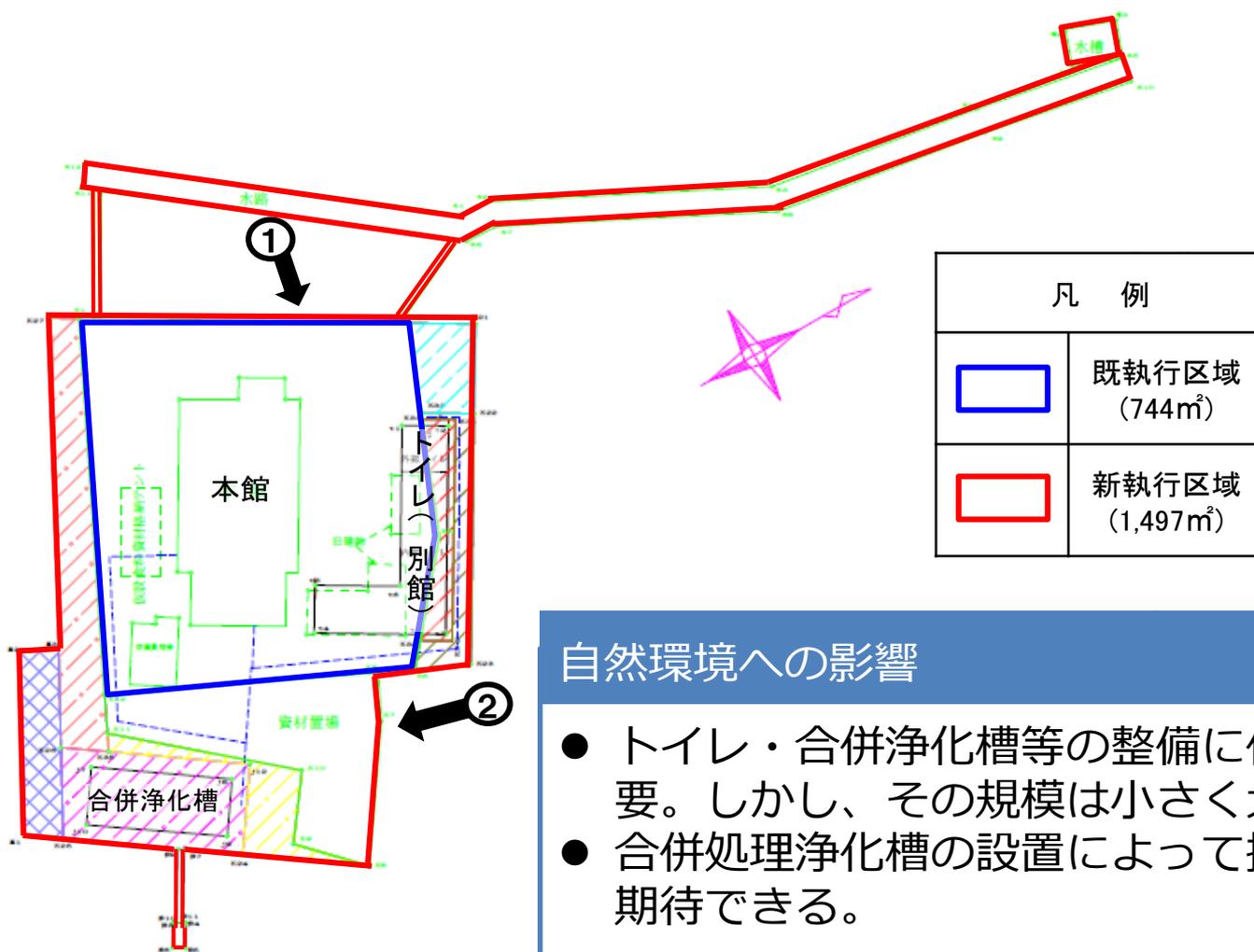


- トイレが足りないという登山者からの苦情や地元自治体からの要請に応え、民間事業者が山岳環境保全対策支援事業を活用し、通過利用でも使用できるトイレを整備する。
- トイレ整備に伴い合併処理浄化槽等もするため事業敷地の拡張が必要。

トイレの整備

執行者：民間

- 本館の北側に別館を整備し、1階をトイレとして通過利用にも開放。
- 合併処理浄化槽を整備し、屎尿・雑排水を処理。



①トイレ(別館)整備予定地



②合併浄化槽整備予定地

自然環境への影響

- トイレ・合併浄化槽等の整備に伴い支障木の伐採が必要。しかし、その規模は小さく大径木もない。
- 合併処理浄化槽の設置によって排水処理能力の向上が期待できる。

中部山岳国立公園

のりくら つるがいけ きゅうけいじょ

乗鞍鶴ヶ池休憩所

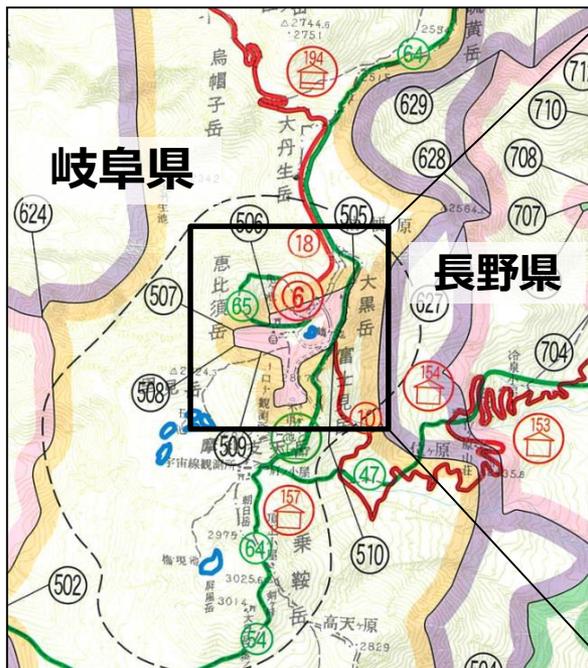
決定

区域面積：0.3ha

執行者（予定者）：高山市

第2種特別地域（国有林）

●位置図



●公園計画図



- 乗鞍鶴ヶ池集團施設地区は南北に延びる複合火山である乗鞍岳のほぼ中央部に位置する。
- 乗鞍鶴ヶ池集團施設地区（畳平 標高2,702m）には、岐阜県側の乗鞍スカイライン又は長野県側の乗鞍エコーラインでアクセスでき、どちらもマイカー規制を実施中。
- 駐車場利用台数等から畳平への入り込み者数は、約14.5万人（平成29年）と推定される。

乗鞍鶴ヶ池休憩所決定位置図

事業規模

区域面積：0.3ha



- 鶴ヶ池西側に位置する畳平駐車場に隣接するバスターミナルが当該施設。
- 当該施設は高山市が乗鞍鶴ヶ池案内所として事業執行している。
- 乗鞍岳の利用が低迷するなか、施設所有者の高山市では、適正かつ快適な利用の推進を図るため、乗鞍の拠点施設として老朽化と不便さが指摘されている畳平バスターミナル内の機能と配置を見直し、全面リニューアルを行う計画。

既存施設の把握（リニューアル）

執行者（予定者）：高山市

- 乗鞍岳の利用が低迷するなか、施設所有者の高山市では、適正かつ快適な利用の増進を図るため、乗鞍の拠点施設として老朽化と不便さが指摘されている畳平バスターミナル内の機能と配置を見直し、全面リニューアルを行う計画。



2階 乗客待合室



2階 軽食コーナー



2階 売店



3階 休憩室



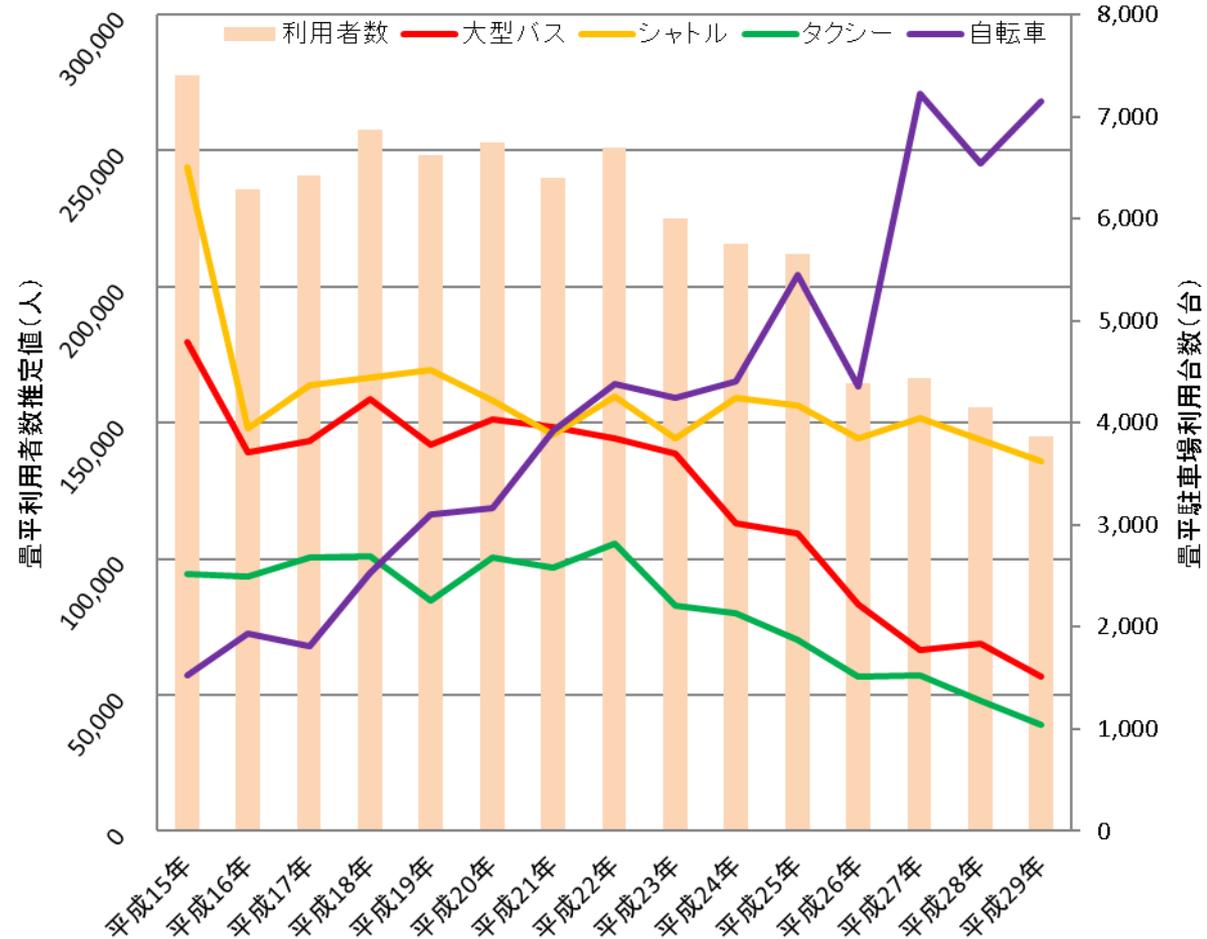
3階 食堂



1階 自然展示室

バスターミナルの現状について

- 乗鞍岳の入り込み者数はマイカー規制が開始された平成15年以降約25万人台で推移。しかし、平成23年以降は減少傾向に転じ、平成29年は過去最低の約14.5万人。
- 大型バスの減少が著しい。
- 団体旅行を想定して整備されたバスターミナルであるため、現在の利用者のニーズに对应されていない。
- 岐阜県が進める中部山岳国立公園活性化プロジェクトにおいても有識者から施設改善の指摘。



自然環境への影響

- 既存施設内部のリニューアルであるため周辺自然環境への影響はない。
- 当然ことながら外観も周辺の風致景観と調和したものになるよう指導する。

中部山岳国立公園 乗鞍鶴ヶ池宿舎

変更

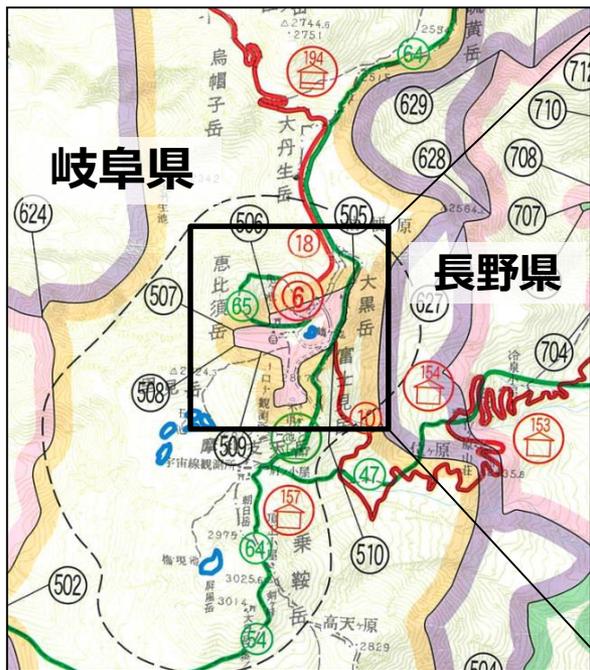
区域面積：1ha→変更なし

最大宿泊者数：450人/日→385人/日

執行者（予定者）：民間

第2種特別地域（国有林）

●位置図



●公園計画図



- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区は南北に延びる複合火山である乗鞍岳のほぼ中央部に位置する。
- 乗鞍鶴ヶ池集団施設地区（畳平 標高2,702m）には、岐阜県側の乗鞍スカイライン又は長野県側の乗鞍エコーラインでアクセスでき、どちらもマイカー規制を実施中。
- 駐車場利用台数等から畳平への入り込み者数は、約万14.5人（平成29年）と推定される。

乗鞍鶴ヶ池宿舎変更位置図



事業規模

区域面積：1ha→変更なし

最大宿泊者数：

450人/日→385人/日



- 鶴ヶ池西側に位置する畳平駐車場周辺に宿舎が存在する。
- 公園計画において当該地である乗鞍鶴ヶ池集団施設地区の整備方針は「宿泊施設は、…収容力は、原則として現状以下とする。」とされているため、野営場の決定（新設）に伴い、野営場の最大宿泊者数（65人/日）分を宿舎の最大宿泊者数から削減するもの。

既存施設の把握

執行者（予定者）：民間

- 現在、2軒の宿舎が執行中。
- 今回の変更に伴う工事は予定されていない。

※ 最大宿泊者数

銀嶺荘 50人/日

白雲荘 80人/日



銀嶺荘



白雲荘

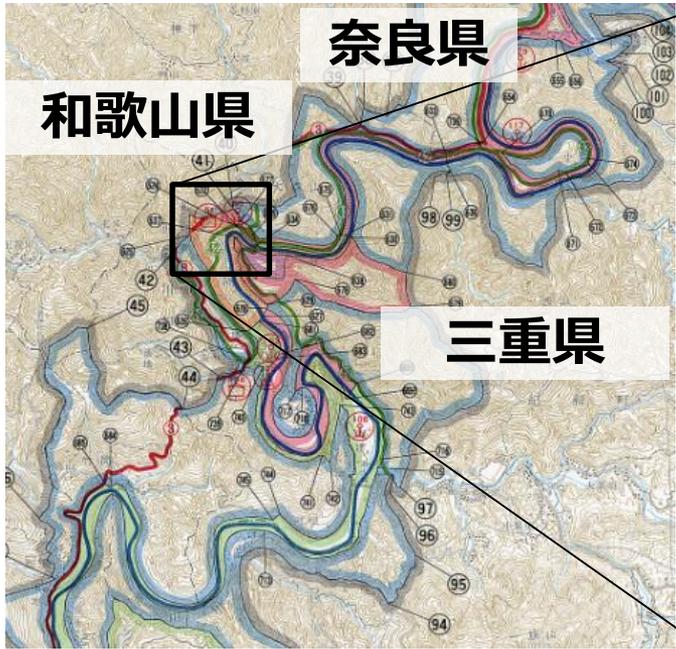
吉野熊野国立公園 たど しゆくしゃ 田戸宿舎

決定

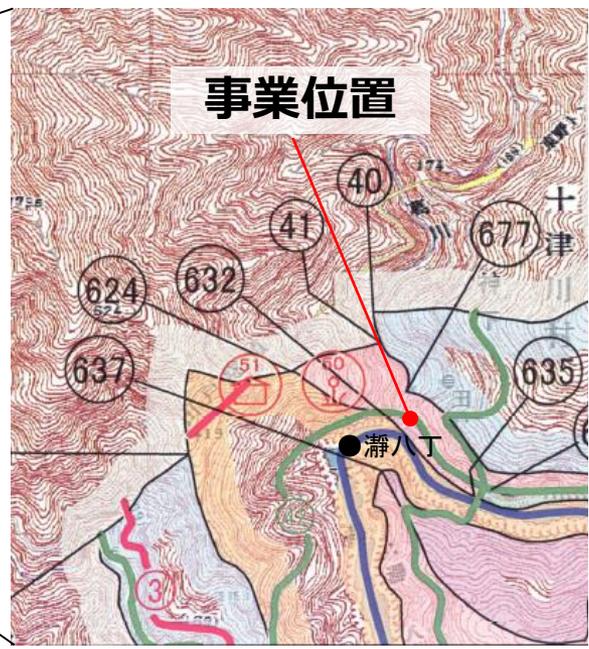
区域面積：0.1ha
最大宿泊者数：50人／日
執行予定者：民間

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



瀬ホテルから望む瀬八丁



瀬ホテルと瀬八丁

- 北山川の中流域に位置し、奈良県、和歌山県にまたがる。
- 瀬ホテルから望む瀬八丁の景観は国指定天然記念物特別名勝に指定されている。
また、大正9年（1920年）に建設された瀬ホテル本館は、平成28年に奈良県有形文化財（建造物）に指定された。

**事業規模**

区域面積： 0.1ha

最大宿泊者数：50人/日



- 瀨峡探勝や近畿自然歩道（筏師の道）の宿泊拠点、休憩地として利用。
- 駐車場やジェット船など、瀨峡の快適な利用に資する施設が整備されており、安全で快適な利用の増進及び自然保護思想の普及啓発が図られる。
- 宿泊施設（本館）が平成28年に奈良県有形文化財に指定されたことで、瀨峡だけでなく当該宿舎自体の保全及び利用価値が高まっている。

既存施設の把握（本館、別館、吊り橋）

執行予定者：民間

- 大正6年（1917年）に、木材運搬の担い手である筏師を宿泊させた「あづま屋」として創業し、本公園指定初期に瀬峡観光を支える観光旅館として株式会社瀬ホテル（当時）により本館（大正9年・1920年）、別館（昭和2年・1927年）が整備された。
- 平成23年の紀伊半島大水害により、浴室、吊り橋などが被災しており、執行予定者は復旧を企図している。復旧にともない既存施設の把握を行うものである。
- 被災箇所の復旧については既存施設の範囲内で行う予定であり、管理運営計画（熊野地域）の公園事業取扱方針に基づき指導する。



自然環境への影響

- 外観が自然景観と調和している施設自体が奈良県の有形文化財に指定されており、奈良県文化財保護条例によって創業当初の意匠が保全される。よって復旧や改修に伴う風致景観への影響は小さい。
- 既存の敷地内で改築する予定であるため、新たな地形の改変は伴わない



吉野熊野国立公園 千里の浜園地

変更

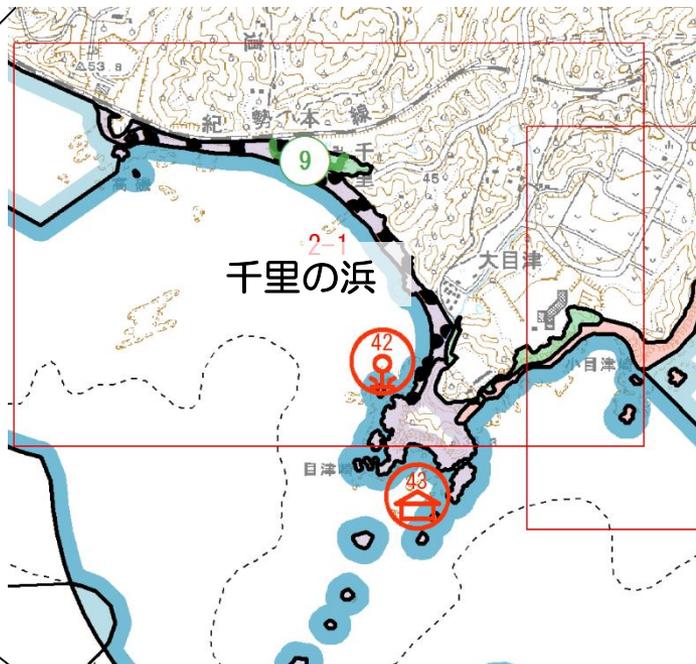
区域面積9.0ha→9.5ha
執行予定者：みなべ町

第1種特別地域、第2種特別地域、第3種特別地域（国有地、町有地、民有地）

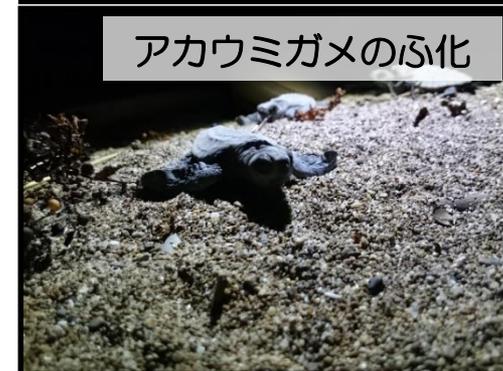
●位置図



●公園計画図



千里の浜



アカウミガメのふ化

○千里の浜は和歌山県みなべ町高磯から目津半島の間、延長約1.5km幅約100mの美しい砂浜海岸が続いている。

○本事業地周辺はアカウミガメの本州最大の産卵地として県の天然記念物に指定され、産卵の観察なども行われている。



既存の園地の決定区域に休憩所部分北側を追加したもの。

- 海岸散策やアカウミガメの産卵等に係る環境学習の場として利用される予定の休憩所や公衆便所が所在する区域について追加する。
- 該当施設を事業として把握することで快適な利用の増進及び自然保護思想の普及啓発が図られる。

自然環境への影響

- ・ 既存施設ではウミガメの研究の活動拠点施設としていたが、建て替えるに伴い、展示スペースや公衆トイレを追加し公園事業として見合う計画であるため公園事業化することを想定。
- ・ 事業執行の見込みがある既存施設が設置されている区域を事業区域としており林地を切り開くような新たな造成するものではない。

施設の利活用について

- ・ 千里の浜は本州最大のアカウミガメの産卵地として知られており、近年は、産卵の観察に一晩で100人を越す観察の申し込みがある場合もある。
- ・ ウミガメの観察には、みなべ町に観察の申請が必要であり、観察人数の制限や観察ルールなどの決めて行っている。
- ・ 現地では、地元ボランティアやNPO等が該当施設を拠点に保護・調査活動を行っているが、その傍らで、観察者に対して観察ガイドを実施し、適正な利用を図っている。
- ・ 今回の公園事業化により、利用者への便宜の他、展示スペースなどでウミガメ観察に対してルールの周知や教化も行う事ができることから、適正な公園利用の推進が期待できる。

大山隠岐国立公園

しゃくのえ みたべせん どうろ

赤江三度線道路（歩道）

決定

路線距離：4.5km

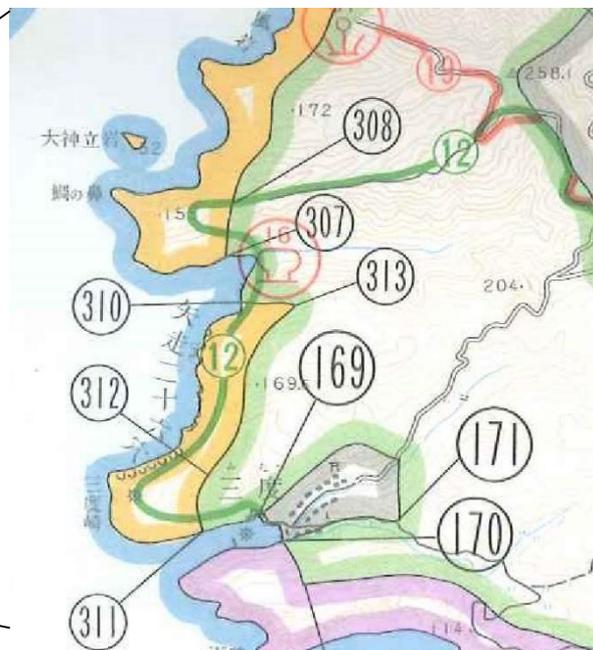
執行者（予定者）：西ノ島町

特別保護地区、第3種特別地域（私有地）

●位置図

●公園計画図

島根県
隠岐郡



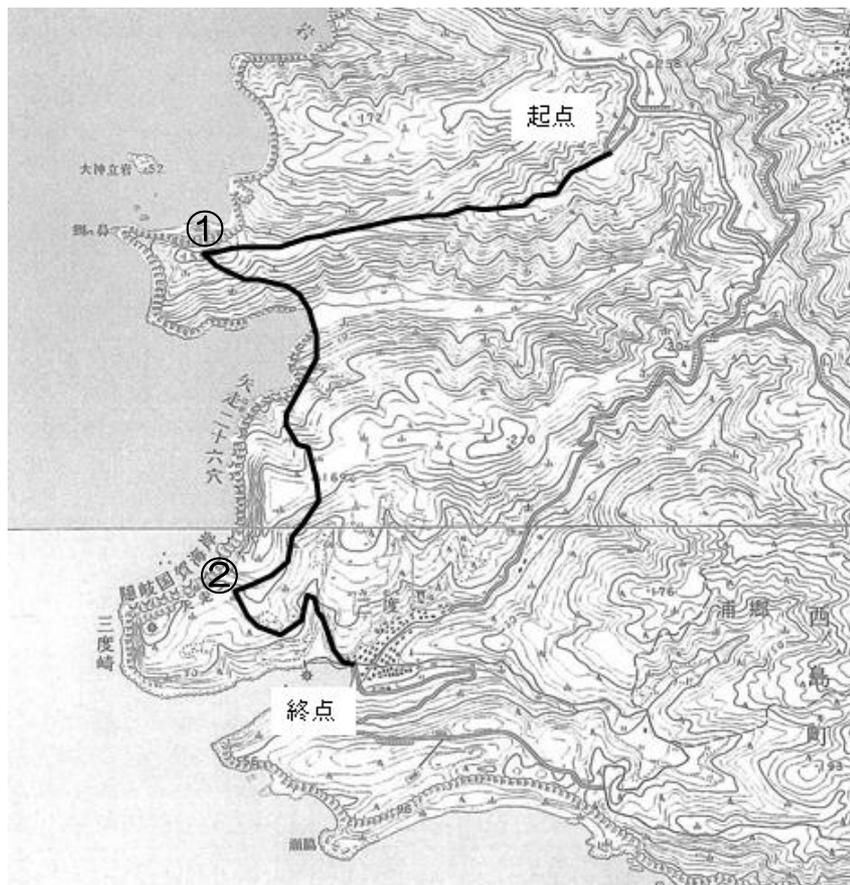
海蝕崖上の放牧地



特別保護地区の海蝕崖

- 大山隠岐国立公園を代表する景観である隠岐国賀海岸沿いに位置している。
- 標高150～200mの程度の海蝕崖上に広がる放牧地。
- 特別保護地区に指定されている海蝕崖や奇岩を見ることができる。
- 周辺では、海蝕景観の探勝や、ダイビング、シーカヤック、海釣りなどの利用がある。

赤江三度線道路（歩道）決定区域図



事業規模

路線距離： 4.5 km

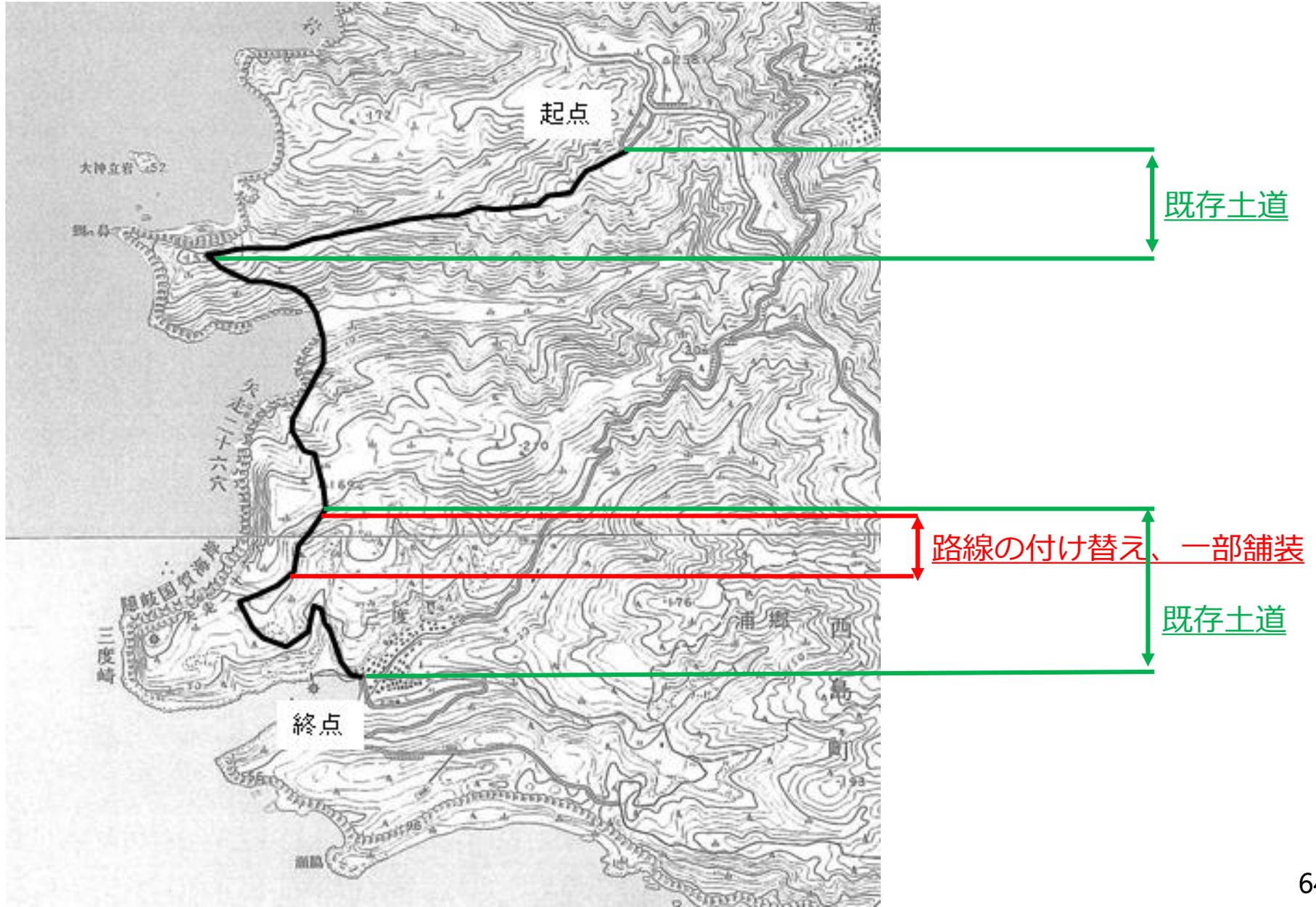


①鯛の鼻から見た大神立岩



②南方に知夫里島を望む

- 平成25年の世界ジオパークの認定を機に、西ノ島町における外国人観光客入込数は伸びている（平成25年：約150人→平成27年：約470人）。
- 特に、トレッキング等のアクティビティを好む欧米からの来訪者が増えており、トレッキングコースの整備が望まれている。
- 車でアクセスできる起点及び終点の間を決定区間とする。



既存施設の把握（土道）、一部区間の改良

執行予定者：西ノ島町

- 一部区間には放牧地管理用の土道が整備されている。
- 勾配が急で滑りやすく、危険な箇所について、路線の付け替えや舗装を行う。



既存の土道



既存の橋



勾配が急で危険な箇所

自然環境への影響

- 既存施設は必要最小限の整備にとどめられている。
- 一部区間の付け替えを行うが、周辺に他の公園利用施設はなく、また、類似の草原環境が広がっているため、地形改変を最小限にとどめる配慮がなされれば、風致・景観上の支障及び動植物への影響は最小限であると考えられる。

阿蘇くじゅう国立公園 志高湖線道路（車道）

決定

路線距離：2.5km

有効幅員：6.5m

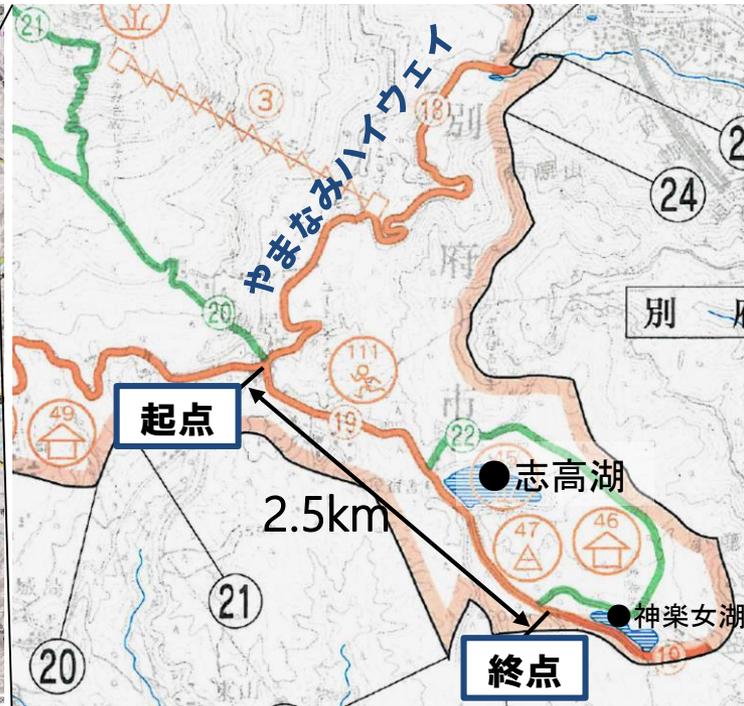
執行者（予定者）：別府市

第2種特別地域（公有地（別府市・市道敷））

●位置図



●公園計画図



志高湖線道路（車道）



志高湖園地

○志高湖の利用者は年間約17～18万人。近年はアジア諸国を中心とする訪日外国人利用者も伸びている。

○阿蘇くじゅう国立公園の基幹道路である別府阿蘇線道路（車道）（通称「やまなみハイウェイ」）と利用拠点である志高湖をつなぐ市道。



事業規模

路線距離：2.5km

有効幅員：6.5m



志高湖線道路（車道）



神楽女湖

○志高湖の利用者は年間約17～18万人。近年はアジア諸国を中心とする訪日外国人利用者も伸びている。



一部線形改良・歩道の整備

- 道路構造令に合致した道路線形に変更させることで適正な利用を図ると共に、歩道を整備し、徒歩による利用者に対応。

既存施設の把握（車道）

- 公園利用に必要な車道が整備されている。



既存車道

自然環境への影響

○車道の改良整備に伴いクヌギやヤマザクラを伐採予定であるが、特に保護の必要な希少種等は含まれていない。

○整備に伴い発生する法面は、風致景觀に支障の少ない工法を選定して保護対策を実施し、周辺植生による緑化を図ることで、風致に与える影響を最小限にとどめる。

瀬戸内海国立公園

かかぢ おかわち せん どうろ

香々地小河内線道路（車道）

決定

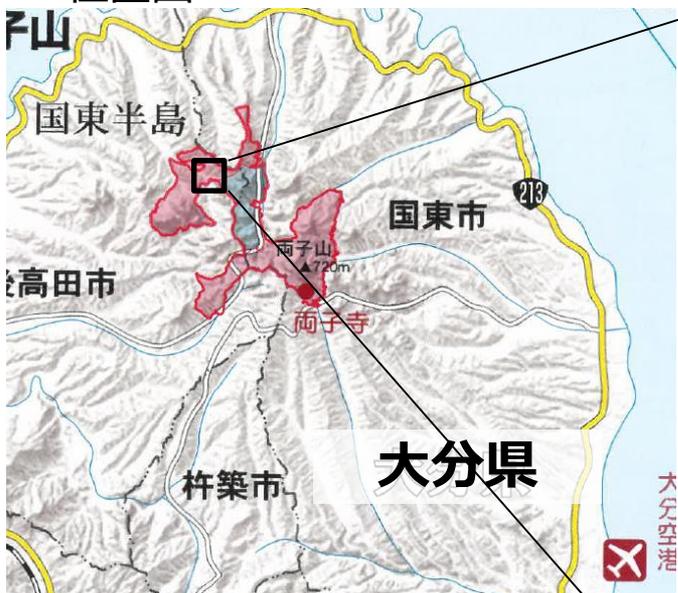
路線距離：0.6km

有効幅員：5.0m

執行者（予定者）：大分県

第2種特別地域（公有地（大分県・県道敷））

●位置図



●公園計画図



○事業地周辺の主な利用形態は、夷谷の奇峰の展望、夷谷温泉等がある。
近年は国東半島全体として奇岩峰を望みながらのロングトレイルの利用が多い。

香々地小河内線道路（車道）決定区域図



事業規模

路線距離：0.6km

有効幅員：5.0m



現行の道路は、道幅が狭く待避所がないため、利用者の通行に支障が生じている。



周辺には、夷谷温泉やロングトレイルの入口があり、当該道路を通過する利用者は多い。

○近隣には夷谷温泉や奇岩峰を望む展望所があり、本車道が利用されている。

○道路構造令に合致した待避所を整備することで適正な利用を図る。

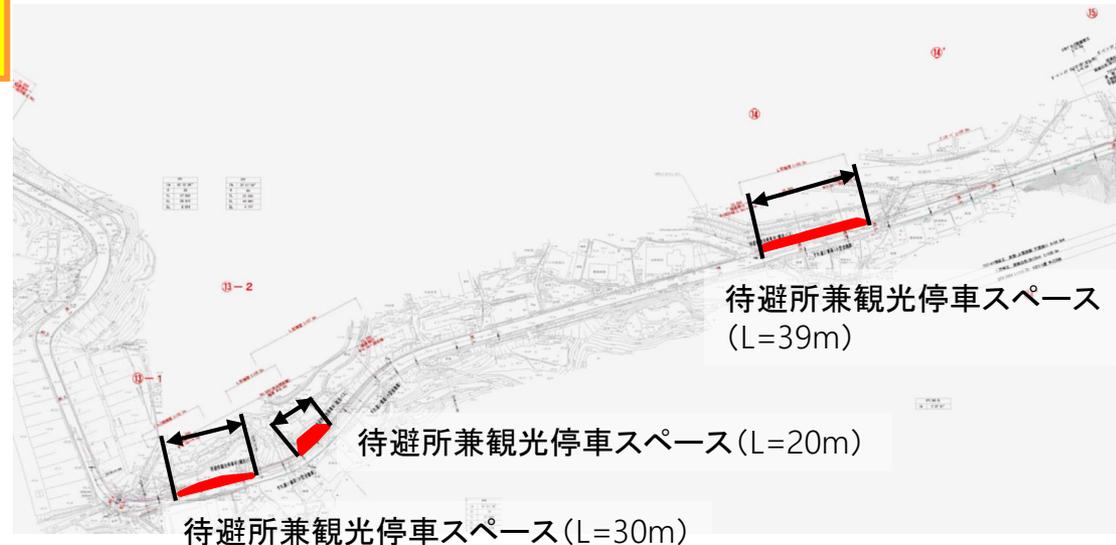
既存施設の把握（車道）



- 公園を利用するために必要な車道が整備されている。

待避所の整備

- 道路構造令に合致した待避所兼観光停車スペースを整備することで適正な利用を図る。



自然環境への影響

○谷側にL型擁壁等の構造物が設置される計画であるが、周辺は民家が建ち並んでいることに加えて、表面を粗面処理することで風致に支障の少ない構造物とする。

○支障木としてサクラ等の樹木の伐採が想定されるが、必要最小限とすることに加えて、保護の必要な希少種等は含まれておらず、自然環境への影響は小さい。

霧島錦江湾国立公園

うなぎ ちゅうしゃじょう 鰻 駐 車 場

決定

区域面積：0.5ha

執行者（予定者）：指宿市

第2種特別地域（公有地（指宿市））

※鰻池は満喫プロジェクトのビューポイント

●位置図



指宿・佐多地域

●公園計画図



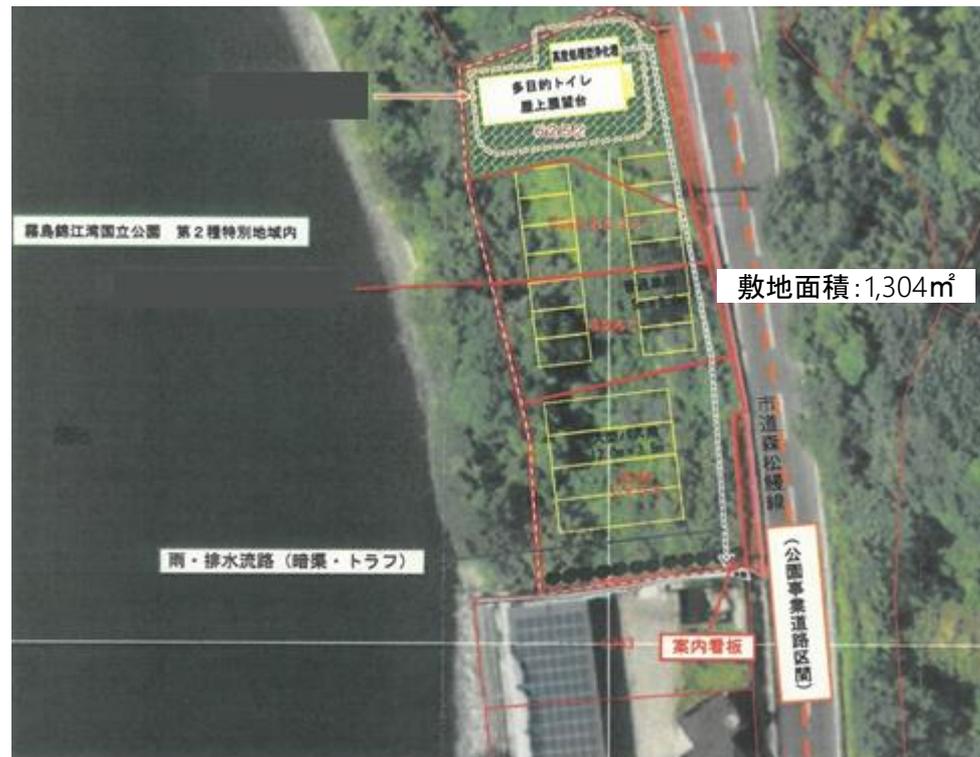
鰻池



鰻駐車場(計画地)

○鰻池は池田湖から東に約3kmの地点にあり、事業計画地は鰻池線道路（車道）事業沿いに位置する。

○事業計画地周辺の利用形態は、鰻温泉の湯治や池畔での自然散策である。



事業規模 区域面積 : 0.5ha

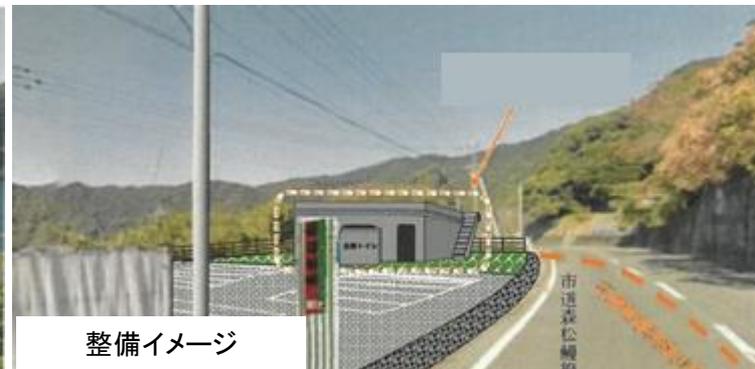
- 鰻温泉の利用者は年間約3万人ほどである。
- 温泉街は駐車場が少なく、また大型の観光バスを駐車できる場所がないことから、温泉街の入口である事業予定地に駐車場と公衆トイレを整備する計画である。
- 鰻池は、満喫プロジェクトのビューポイントであり、今後県や市により滞在プログラム開発や拠点施設の整備が行われる予定である。
- 温泉利用や散策利用の増加が見込まれることから駐車場の整備は必要である。

駐車場・公衆トイレの整備（新設）

● 公衆トイレ



整備イメージ

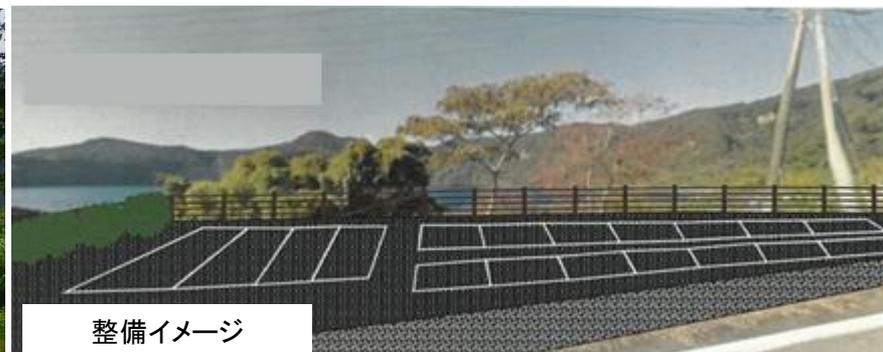


整備イメージ

● 駐車場



事業予定地



整備イメージ

自然環境への影響

- 事業予定地は耕作放棄地で、現在は樹木の少ない草地となっている。
- 整備に係る支障木の伐採は、約5本程度であり、周囲の歩道や湖岸からは望見されないようレイアウトが配慮されている。
- 伐採する樹木に希少種等は含まれておらず、自然環境への影響は小さい。
- 公衆トイレの建替は、風致に配慮した形状や色彩とし、汚水は浄化槽で処理した後に放流し、河川や湖沼の水質に影響を与えない計画とする。

奄美群島国立公園

あぜ かいがん えんち

畦海岸園地

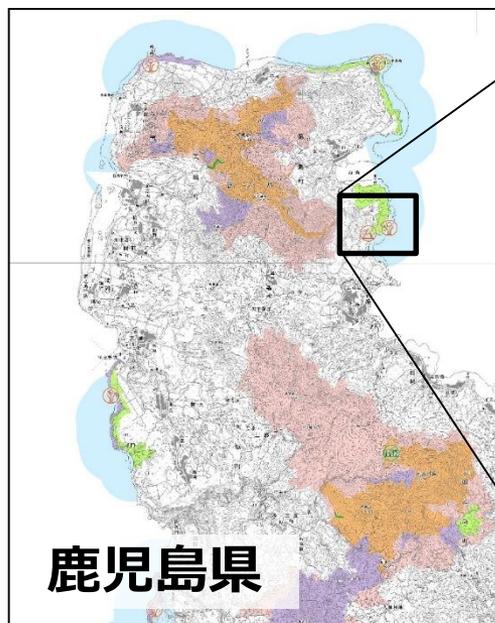
決定

区域面積：4.0ha

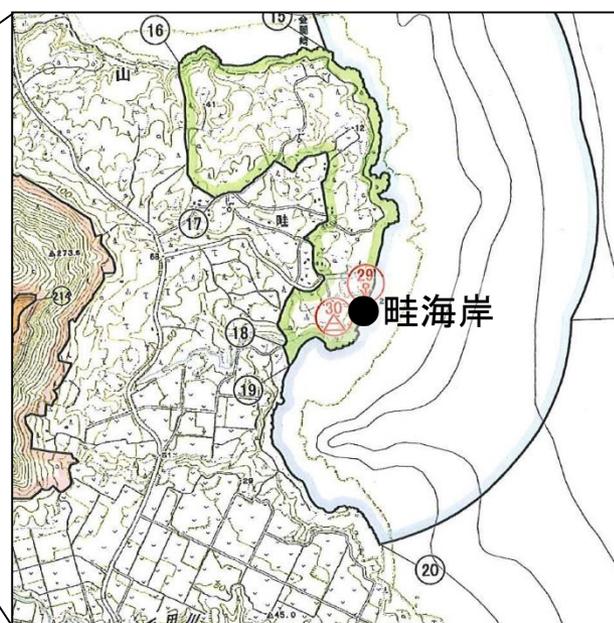
執行者（予定者）：徳之島町
環境省

第3種特別地域（私有地）

●位置図



●公園計画図



- サンゴ礁の砂浜からなる1.5km程度の海岸で、美しい海浜と周囲に広がる礁池の景観が眺望できる。
- 島内でも屈指の美しい海浜として有名であり、主な利用形態は海水浴、海岸の散策である。
- 平成28年中の利用者数は51,000人（徳之島町調べ）であるが、来年度の徳之島空港の就航便拡充を受けて利用者は増加が予想される。

畦海岸園地決定区域図



事業規模

区域面積：4.0ha



遊歩道

○本国立公園指定前から、徳之島町によって、駐車場、園路、トイレ等が整備されている範囲を決定するもの。

既存施設の把握（駐車場、トイレ等）

執行者：徳之島町
環境省

- 徳之島町によって駐車場、トイレ等が整備されている



駐車場



トイレ



園路



展望台

自然環境への影響

既に整備されている施設を把握するものであり、新たな工事は行われないため、周囲の自然環境に与える影響はない。

奄美群島国立公園 あぜ かいがん やえいじょう 畦海岸野営場

決定

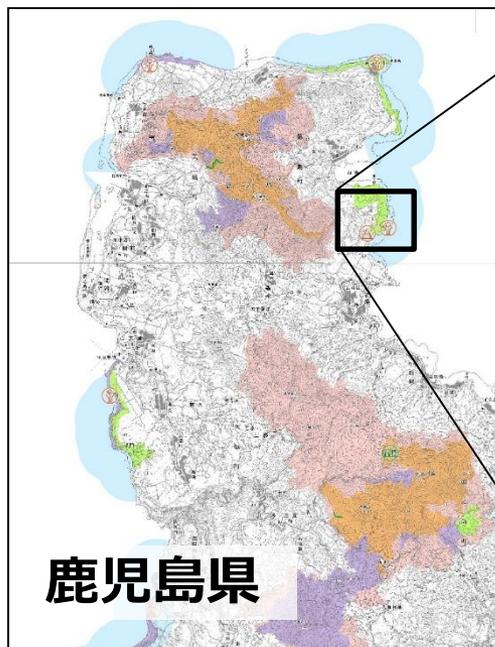
区域面積：0.8ha

執行者（予定者）：徳之島町

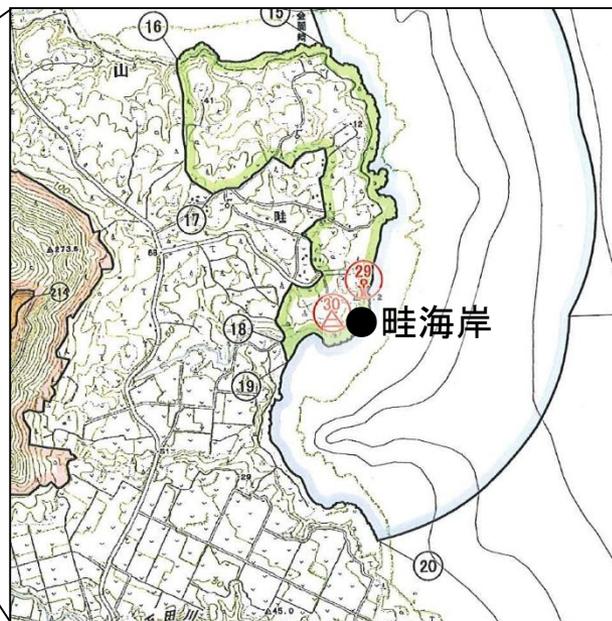
最大宿泊者数：100人/日

第3種特別地域（私有地）

●位置図



●公園計画図



○サンゴ礁の砂浜からなる1.5km程度の海岸で、美しい海浜と周囲に広がる礁池の景観が眺望できる。

○主な利用形態は海水浴、海岸の散策

○平成28年中の利用者数は51,000人（徳之島町調べ）であるが、来年度の徳之島空港の就航便拡充を受けて利用者は増加が予想される。

畦海岸野営場決定区域



事業規模

最大宿泊者数：100人／日

区域面積：0.8ha



畦海岸野営場

○本国立公園指定前から、徳之島町によって、駐車場、炊事棟、野外ステージ等が整備されている範囲を決定するもの。

既存施設の把握（管理棟、炊事棟等）

執行者：徳之島町

- 管理棟、炊事場、駐車場等が整備されている。



管理棟



炊事棟



駐車場



トイレ



野外ステージ

自然環境への影響

既に整備されている施設を把握するものであり、新たな工事は行われないため、周囲の自然環境に与える影響はない。

奄美群島国立公園 いん じょうふた えんち 犬の門蓋園地

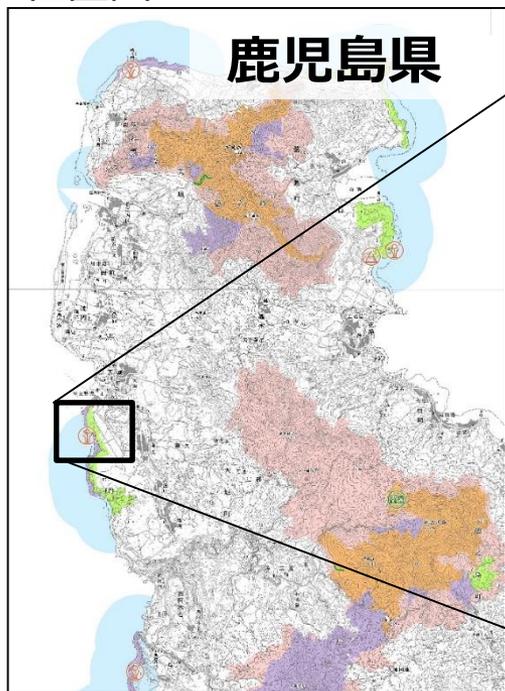
決定

区域面積：1.0ha

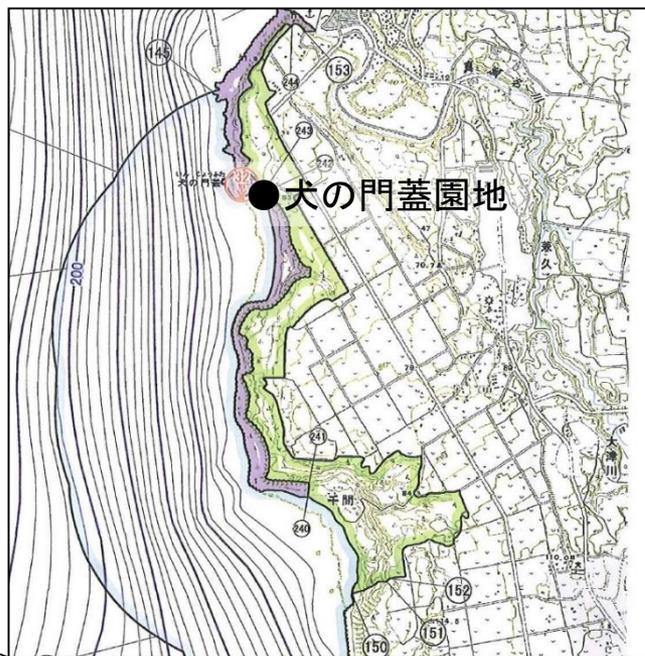
執行者（予定者）：天城町
環境省

第1種特別地域（公有地（天城町））

●位置図



●公園計画図



展望台からの景観



奇岩（メガネ岩）

- 隆起サンゴ礁からなる断崖上にあり、徳之島を代表する海食崖と奇岩など特徴的な景観を有する。
- 周囲をアダンが取り囲んでおり、岩場にはイソマツ（VU）、モクビャクコウ（VU）、ハマトラノオ（VU）等の海岸植生が広がる。

犬の門蓋園地決定区域図



事業規模

区域面積：1.0ha



- 平成28年入込者数は約4千人（観光バス利用者のみ把握）で、ツアー参加者でない個人利用者も数多く利用しており、島内有数の観光地となっている。
- 海食崖地形の探勝、海岸遊歩道の散策、冬季のホエールウォッチング等に利用されている。
- 平成30年度に徳之島空港の就航便が増便され、空港から比較的容易にアクセスできることから、利用者の増加が予想される

既存施設の把握（駐車場、展望台、園路等） 執行者：天城町、環境省

- 天城町により駐車場、展望台、園路等が整備されている



駐車場



展望台



トイレ



園路



標識

自然環境への影響

既に整備されている施設を把握するものであり、新たな工事は行われないため、周囲の自然環境に与える影響はない。

奄美群島国立公園

いぬ たつぷ みさき えんち

犬田布岬園地

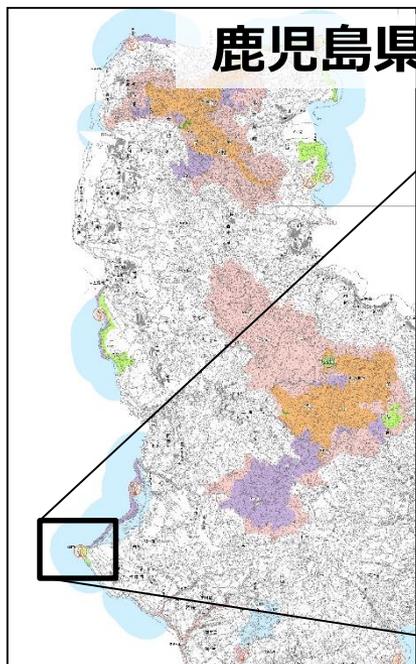
決定

区域面積：11.5ha

執行者（予定者）：伊仙町
環境省

第3種特別地域（公有地（伊仙町））

●位置図



●公園計画図



海食崖

- 隆起サンゴ礁からなる高さ100m程の岬上であり、徳之島の最西端に位置する。
- 奄美十景の一つとして有名であり、徳之島の主要な観光地の一つである。
- 海食崖地形の探勝、海岸遊歩道の散策、冬季のホエールウォッチング等に利用されている。

犬田布岬園地決定区域図



事業規模

区域面積：11.5ha



○本国立公園指定前から、伊仙町によって、駐車場、公衆便所、展望所等が整備されている範囲を決定するもの。

既存施設の把握（駐車場、トイレ、標識等）

執行者：伊仙町、環境省

- 駐車場、トイレ、展望台、園路等が整備されている。



駐車場(伊仙町)



トイレ(伊仙町)



園路(伊仙町)



展望台(伊仙町)

自然環境への影響

既に整備されている駐車場等を把握するものであり、新たな工事を行われないため、周囲の自然環境に与える影響はない。

奄美群島国立公園

おきどまり かいがん やえいじょう

沖泊海岸野営場

決定

区域面積：1.2ha

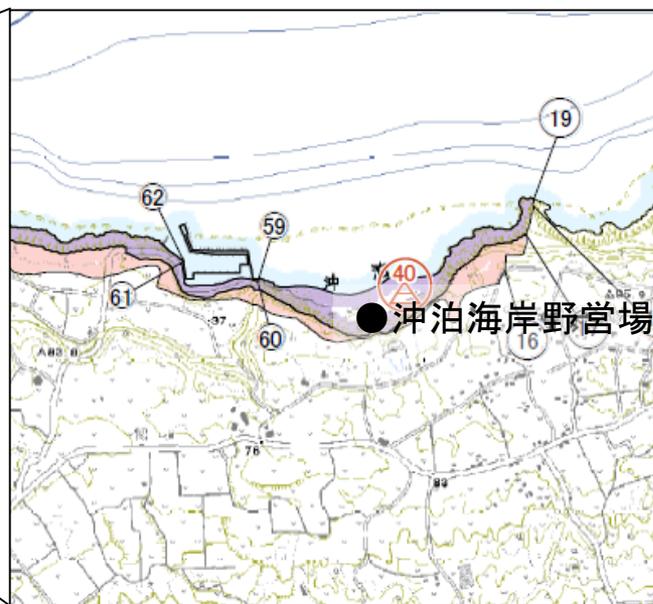
執行者（予定者）：知名町

最大宿泊者数：100人/日

第1種特別地域（公有地（知名町））

●位置図

●公園計画図



○海岸崖下の砂浜、植生、礁湖があり、周辺の田皆岬園地の断崖景観を含め一帯が沖永良部島随一の景勝地となっている。

沖泊海岸野営場決定区域図



事業規模 最大宿泊者数：100人/日
区域面積：1.2ha



野営場

- 海水浴や礁池内での自然観察等を楽しむ利用者のための施設として、知名町により炊事棟、休憩所等が整備されている範囲を決定するもの。
- 平成28年の利用者は約7,200人、将来的にはゆるやかに増加すると想定される。

既存施設の把握（炊事棟、トイレ等）

執行者：知名町

- 炊事棟、トイレ、休憩所等が整備されている。



炊事棟



トイレ



休憩所

自然環境への影響

既に整備されている施設を把握するものであり、新たな工事は行われないため、周囲の自然環境に与える影響はない。